

三菱業務用ロスナイ

外気処理ユニット（天井埋込形加熱加湿付直膨タイプ（ドレンアップメカ内蔵機種））

形名

R410A 対応

LGH-N35RDF4-DM

LGH-N50RDF4 (-DM)

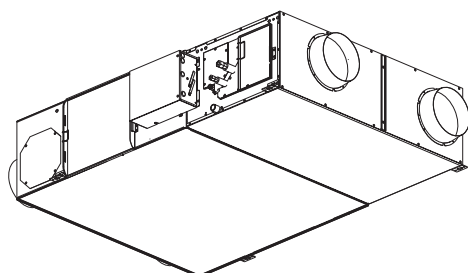
LGH-N80RDF4 (-DM)

LGH-N100RDF4 (-DM)

冷媒回路内にほこり、ごみ、水分等が混入しないよう、冷媒配管工事に注意してください。

据付工事説明書

販売店・工事店様用



据付工事を始める前に、この説明書をよくお読みになり、正しく安全に据付けてください。ご購入された製品がお客様のご希望の製品であることをご確認ください。

- 据付工事は必ず専門の工事店で実施してください。電気工事は電気工事士の方が実施してください。（お客様自身で取付けしないでください。無資格者の電気工事は法律で禁止されています）給水配管工事は、所轄水道局（水道事業者）指定の給水装置工事事業者の方が実施してください。
- この製品は三菱電機ビル空調マルチエアコンの室外ユニットに接続して使用します。
- 形名末尾 [-DM] タイプ（ドレンアップメカ内蔵機種）については据付工事説明書（ドレンアップメカ内蔵形専用編）も併せてご覧ください。

別冊の「取扱説明書」はお客様用です。据付工事が終わりましたらこの説明書とともに、お客様に必ずお渡しください。別冊の取扱説明書に従って、正しい使いかたをご説明ください。

もくじ

ページ

据付けの前に

安全のために必ず守ること	2～4
外形寸法図	5
標準据付例	6

据付けの前に

据付工事

据付方法	7～14
据付け前の準備	7～8
本体の固定	8～9
ダクト接続	9
給水配管工事	10
ドレン配管工事	10～11
凍結防止工事	12
冷媒配管工事	12～14
電気工事	15～21
機能設定	22～52
据付工事後の確認	53

据付工事

試運転



試運転	54～55
-----	-------

試運転






法令関連の表示	裏表紙
お客様への説明	裏表紙

安全のために必ず守ること

■ 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

	警告	誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
	注意	誤った取扱いをしたとき、軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの



■ “図記号”の意味は次のとおりです。

	禁止		風呂・シャワー室での使用禁止
	分解禁止		指示に従い必ず行う
	アース線を必ず接続せよ		





警告

	<p>当社指定の冷媒以外は絶対に封入しない 法令違反の可能性や、使用時・修理時・廃棄時などに、破裂・爆発・火災などの発生のおそれがあります。 封入冷媒の種類は、機器付属の説明書あるいは銘板に記載されています。それ以外の冷媒を封入した場合の故障・誤動作などの不具合や事故などについては、当社は一切責任を負いません。</p> <p>分割搬入をしない (本製品は分割搬入はできません。火災・感電・落下・けが・水漏れの原因になります)</p> <p>低温（0℃以下）となる場所には据付けない (電磁弁、配管等が破裂し、水漏れの原因になります)</p> <p>高温（40℃以上）や直接炎があたったり、油煙の多い場所には据付けない (火災のおそれがあります)</p> <p>機械および化学工場など酸・アルカリ・有機溶剤・塗料など有害ガス・腐食性成分を含んだガスが発生する場所には据付けない (絶縁劣化による漏電火災や故障の原因になります)</p> <p>塩害・温泉害などの発生している場所には据付けない (絶縁劣化による漏電火災や故障の原因になります)</p> <p>ドレン配管の途中に市販のドレンポンプ（ドレンアップメカ）を接続して排水を処理しない (製品の異常停止や、ドレンポンプの故障により水漏れし、天井・床・その他、大切なものを濡らす原因になります)</p> <p>ドレン配管の先端を雨どい等に入れない (大雪時、雨どいが凍結して排水されず、本体から水漏れする原因になります)</p>		<p>本体の据付工事は十分強度のあるところを選んで確実に 行う (落下によりけがをすることがあります)</p> <p>端子台接続部は、指定の電線を使用して、抜けないように確実に接続する (接続に不備があると火災のおそれがあります)</p> <p>電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付工事説明書に従って取付けし、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧・ブレーカーを使用する (電源回路容量不足や取付不備があると感電、火災の原因になります)</p> <p>漏電保護用に電源側へ漏電ブレーカーを使用する (漏電した場合、火災の原因になります)</p> <p>製品金属部（金属製ダクト）がメタルラス張り、ワイヤラス張り、ステンレス板などの金属と電気的に接続しないように取付ける (接続されていると漏電した場合、火災の原因になります)</p> <p>電気工事の際は、必ず分電盤のブレーカーを切る (通電状態では感電やけがをすることがあります)</p> <p>凍結のおそれのある地域では、必ず凍結防止工事を行う (電磁弁・配管などが破損し、水漏れの原因になります)</p> <p>冷凍サイクル内に、室外ユニットと同種の指定冷媒を使用する (異なった冷媒や空気等が混入すると、破裂等の原因になります)</p> <p>火気使用中に冷媒ガスを漏らさないよう注意する。溶接作業は開放された部屋で実施する (有毒ガスが発生し、ガス中毒の原因になります)</p> <p>据付工事は、指定冷媒用に製造された専用のツール・配管部材を使用し、この据付工事説明書に従って確実に 行う (使用している HFC 系 R410A 冷媒は従来の冷媒に比べ圧力が約 1.6 倍高くなります。専用の配管部材を使用しなかったり、据付けに不備があると破裂・けがの原因になり、また水漏れや感電・火災の原因になります)</p> <p>冷媒配管は、JIS H 3300「銅及び銅合金継目無管」の C1220 のりん脱酸銅を、配管継手は、JIS B 8607 に適合したものを使用し、配管接続を確実に 行う (配管接続に不備があると、アース接続が不十分となり感電の原因になります)</p>
	<p>改造や必要以上の分解をしない (火災・感電・落下・けが・水漏れの原因になります)</p>		
	<p>浴室など湿気の多い場所には、本体・コントロールスイッチとも取付け ない (感電や故障の原因になります)</p>		
	<p>アース（D 種接地）を確実に取付ける (アースを取付けないと故障や漏電したときの感電の原因になります)</p>		
	<p>定格電圧、制御容量範囲で使用する (間違った電圧で使用すると火災や感電の原因になります)</p> <p>コントロールボックスカバーは施工後、必ず取付ける (ほこり・湿気などにより漏電・火災の原因になります)</p> <p>外気の取り入れは、燃焼ガス等の排気を吸い込まない、積雪で埋もれたりしない位置を選ぶ (新鮮な空気が入らず、酸欠状態になるおそれがあります)</p>		

⚠ 警告

 指示に従い 必ず行う	据付工事終了後、冷媒が漏れていないことを確認する <small>(冷媒が室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります)</small>	 指示に従い 必ず行う	吊りボルト・ナット・ワッシャーは必ず指定のものを使用する <small>(指定以外のものを使用すると落下の原因になります)</small>
	本体より室外側のダクトは室外に向かって下りこう配 (1/30 以上) になるように取付け、断熱処理を確実に <small>(雨水の浸入による漏電・火災や家財の損傷のおそれがあります)</small>		冷媒種類毎 (R410A) 使用機器の注意点 (13 ~ 14 ページ参照) を守る <small>(守らないと能力不足や冷凍機油劣化の原因になります)</small>
	据付け後長期間使用しないときは、必ず分電盤のブレーカーを切る <small>(絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります)</small>		冷媒配管の断熱は結露しないよう確実に <small>(不完全な断熱処理を行うと配管など表面が結露して、露タレなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になります。接続部の断熱施工は、気密試験後に行ってください)</small>

⚠ 注意

 禁止	軟水器を使用しない <small>(残留物が析出し、飛散する原因になります)</small>	 指示に従い 必ず行う	SA 側のダクト、システム部材およびドレン配管には必ず断熱処理を行う <small>(冷房時、結露により漏電・家財の破損のおそれがあります)</small>
	過加湿にしない <small>(結露により、建物を傷める原因になります)</small>		据付けの際は手袋を着用する <small>(着用しないとけがの原因になります)</small>
 指示に従い 必ず行う	適用室外ユニット以外と接続しない <small>(外気処理ユニットや室外ユニットの故障の原因になります)</small>	 指示に従い 必ず行う	製品の運搬には十分注意して行う <small>(20 kg 以上の製品は原則として二人以上で行ってください。PP バンドなどで所定の位置以外を持って製品を動かさないでください。素手で板金部品などに触れるとけがをすることがありますので保護具をご使用ください)</small>
	ドレン工事は据付工事説明書に従って確実に排水するよう施工し、結露が生じないよう断熱処理をする <small>(配管工事に不備があると、水漏れし、天井・床その他家財などを濡らす原因になります)</small>		

安全のために必ず守ること つづき

お願い

- 霧・もや・高湿度な空気を吸い込むと、フィルター、ロスナイエレメントから水滴が垂れ、機外に水が漏れることがあります。このような場合は、運転モードの切換えをしてください。（高湿度空気を吸い込む場合は、換気モードをロスナイ換気で運転してください。濃霧や強風などで雨水が浸入するおそれがある場合は、運転を停止してください）
- 温水プール、浴室、きのこ栽培室、岩盤浴等の高温多湿(30℃以上、相対湿度80%以上の時)になる地域や霧の多発地帯*で使用する場合、エアフィルターやロスナイエレメント内部に結露が生じてドレンが発生することがあります。このような条件下においては外気処理ユニットは使用できませんので、耐湿形ロスナイをご使用ください。

*霧の多発地域

- 視程50m~200mの濃い霧が3時間以上/日発生する地域
- 山間部、湖、海岸など霧・もや・高湿度な空気発生のある地域
- 1か月に複数回、1晩以上霧が継続して発生する地域
(右表は上記にあてはまる地域を気象庁「気象統計情報」より抽出したものです。右表以外の地域でも上記にあてはまる地域は霧多発地域となります)
(霧・もや：視界範囲が10km以下となる高湿度状況)

都道府県名	地域名
北海道	稚内、北見枝幸、釧路、雄武、紋別、網走、寿都、江差、苫小牧、室蘭、浦河、帯広、根室
青森	八戸
岩手	宮古
宮城	石巻
福島	小名浜
栃木	奥日光
千葉	銚子、館山
静岡	石廊崎、御前崎
長野	軽井沢
高知	室戸岬
長崎	平戸、雲仙岳
熊本	阿蘇山

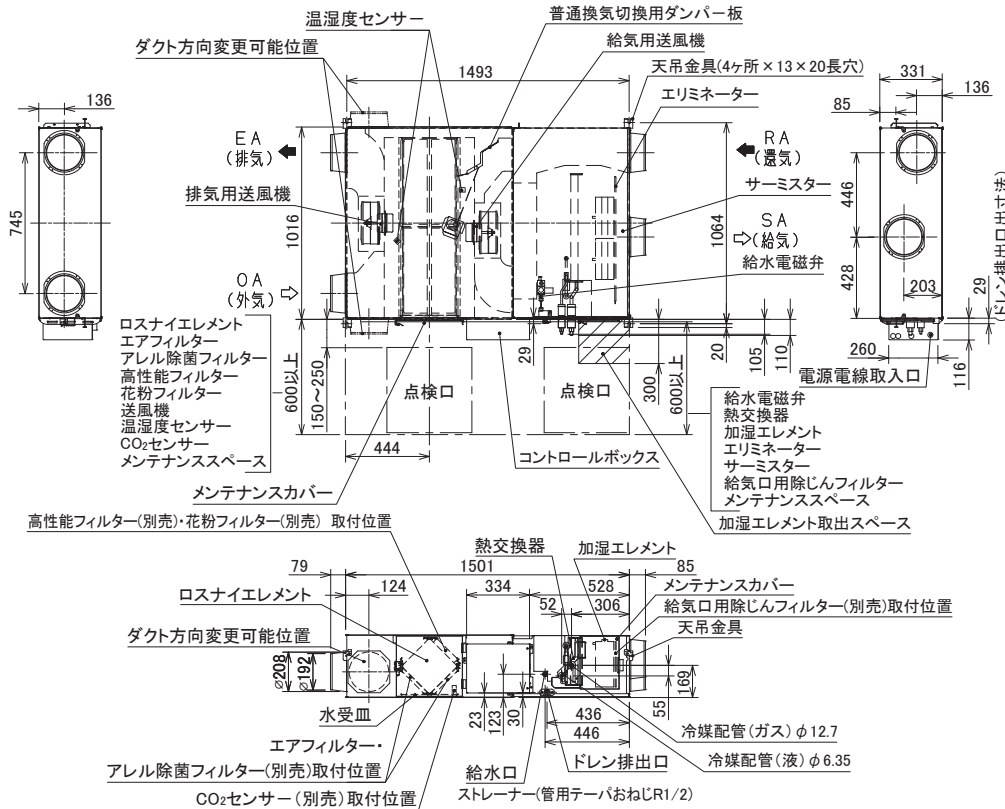
- 建物内が負圧になる設置環境では、運転停止時や間欠運転時に霧・もや・高湿度空気が室内に侵入することがありますので、電動ダンパーを併用してください。寒冷地・外風の強い場所や建物内が負圧になる設置環境の場合は、運転停止時に室内外の圧力差や外風により、冷氣・外風等が侵入することがあります。侵入防止策としてOA(外気)側およびEA(排気)側に当社推奨の電動ダンパー(AT-100・150・200・250DE(株式会社メルコエアテック製))を併用してください。電動ダンパーを併用する場合、送風機運転モニター出力(電気工事(選択工事)4項を参照)の使用を検討ください。設置する風路に合わせ、電動ダンパーの開閉と送風機の運転を連動させることができます。
- 別売システム部材(耐外風雨・霧浸入防止フード)と組み合わせてご使用をご検討ください。なお、製品内に水が溜まっている場合は、水滴を拭き取る等の清掃を行い、ご使用ください。
- 寒冷地などでは使用条件範囲内で使用する場合でも、外気条件と天井裏温湿度条件によって、本体表面およびダクト接続部他が結露、結氷するおそれがあります。このような条件下で使用される場合は断熱材重ね貼りの追加工事を実施してください。
※結露条件例 外気：0℃以下、設置場所露点温度：10℃以上(天井裏温度22℃以上で相対湿度50%以上のときなど)
- 電気・電子機器や濡れて困るものの上に製品を設置しないでください。外気や設置場所の温湿度条件により製品から露が落ちて、破損や汚損につながる場合があります。
- 雨水浸入防止対策を施してください。(標準据付例の雨水浸入防止をご参照ください)
- 天井材は共鳴しにくい材質をご使用ください。
- 給気・排気が混ざらない配管工事を行ってください。
- 供給水の硬度、イオン状シリカ、酸消費量が多い場合は、加湿エレメントからスケール成分(白粉)が発生することがあります。給気を直接室内へ供給する場合は、室内に白粉が飛散する可能性があるため、飛散対策として別売システム部材「給気口用除じんフィルター」のご使用をご検討ください。
- 一般的に、郊外建物などで給気側屋外フード近くに窓面などがあり、照明光に虫が集まりやすい環境下においては、給気側屋外フードから本体内に侵入した虫が、室内に侵入する場合があります。食品工場や病院などの衛生建物でこのような環境にあり、虫侵入を防止する対応としては、別売のシステム部材「給気口用除じんフィルター」または「フィルター付給気グリル」をご使用ください。(本体への装着は工事店にて実施となります)
- 室外側のOA(外気)ダクトに過大な圧力損失がかかるとRA(還気)側からSA(給気)側への空気漏れが増加する傾向があります。OA側に過大な圧力損失がかからないように施工してください。
- 風量調節ダンパーを使用する場合、OA(外気)側とEA(排気)側で極端にアンバランスに設定しないでください。
- 製品運搬時・保管時には製品を縦置きしないでください。
- 低外気温度時は冷風侵入により加湿部が凍結破損、結氷による水漏れの可能性があります。加湿運転時は室内暖房運転と併用してご使用ください。また、製品停止時は加湿部が0度以下にならないように電動ダンパーおよび凍結防止ヒーターを併用してください。
- 給水・排水工事は各市町村の条例に従ってください。
- 喫煙室での換気用途としてはご使用できません。
- 本製品は、定期的なメンテナンスを怠ると性能低下の原因となります。メンテナンスのために必ず本紙に記載しているメンテナンススペース、点検口を設置してください。
- 補助送風機の設置はカタログ、納入仕様書に記載の各風量設定時における風量-圧力損失曲線の範囲内でご使用ください。開放風量以上の範囲で使用された場合、モーターの異常発熱・異常停止、羽根破損などの故障や水漏れ等の製品不具合に繋がるおそれがあります。

外形寸法図

※ LGH-N35RDF4-DM の外形図は据付工事説明書（ドレンアップメカ内蔵形専用編）をご覧ください。

■ LGH-N50RDF4

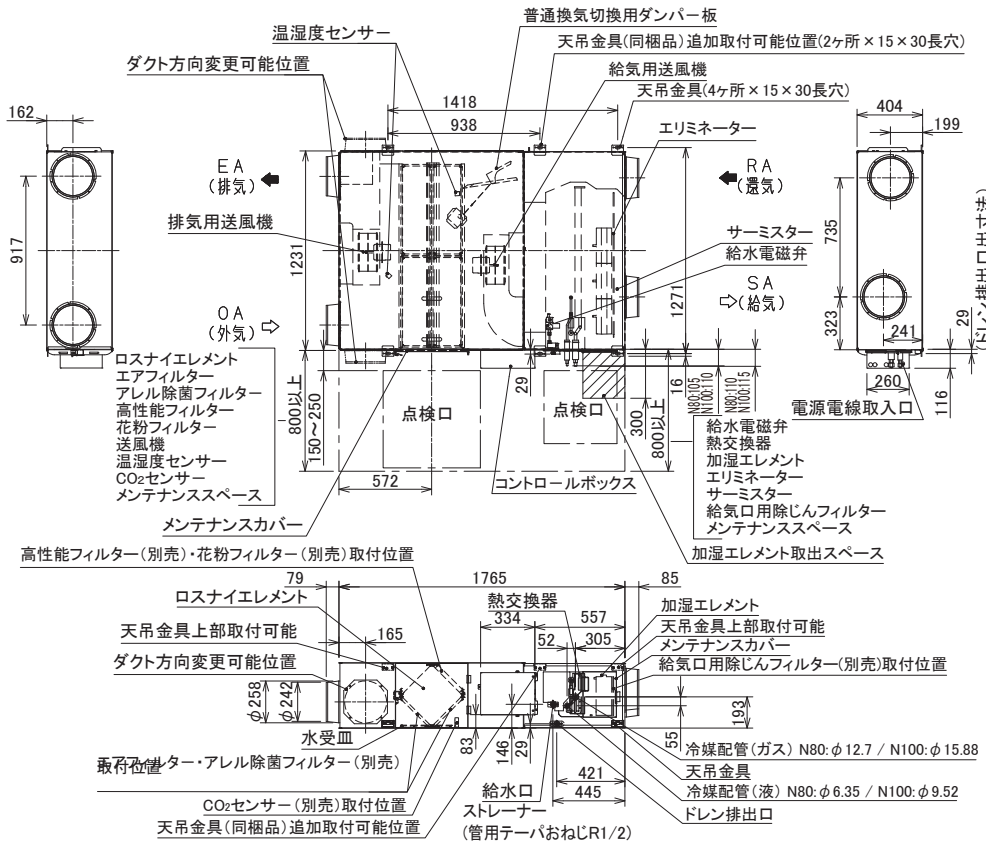
単位 (mm)



* 加湿エレメントカバー前には給水配管や冷媒配管を施工しないでください。
(加湿エレメント、エリミネーター、給気口用除じんフィルターのメンテナンスができなくなります)

■ LGH-N80RDF4・LGH-N100RDF4

単位 (mm)



* 加湿エレメントカバー前には給水配管や冷媒配管を施工しないでください。
(加湿エレメント、エリミネーター、給気口用除じんフィルターのメンテナンスができなくなります)

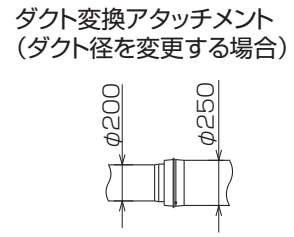
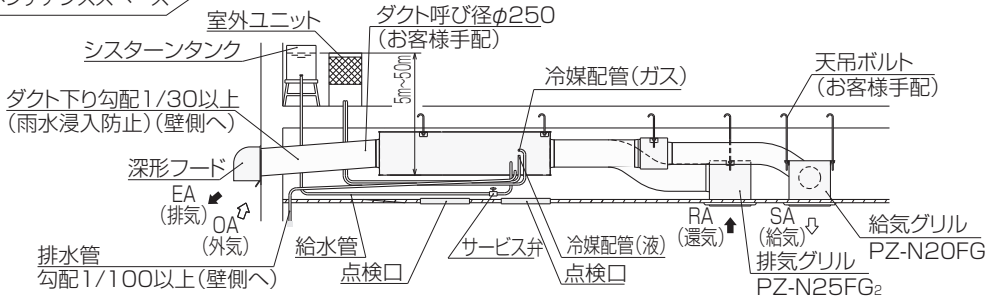
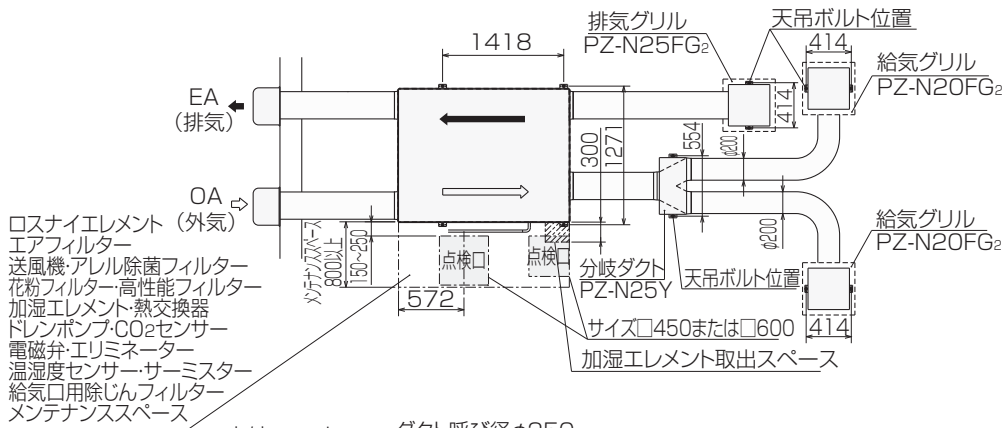
■ 付属部品

ダクト接続工事用 (P7)	①ダクト接続フランジ……4個
	②取付ねじ……16本
	③アルミテープ…1枚
ドレン配管工事用 (P10,11)	④ドレンホース…1個
	⑤断熱材 (ドレン配管用) ……1個 ⑥結束バンド (大) ……1本 (小) ……2本
冷媒配管接続工事用 (P12~14)	⑦断熱材(冷媒配管用) ……2個
	⑧断熱パイプ……2個 ガス管用(短) 液管用(長)
	⑨結束バンド (大) ……4本
本体固定用 (P8,9)	⑩天吊金具……2個 (LGH-N80,100タイプのみ)
	⑪天吊補助金具…4個 (LGH-N35, 50タイプのみ)
	⑫ねじキャップ…18個

標準据付例

※図は LGH-N100 タイプを示す

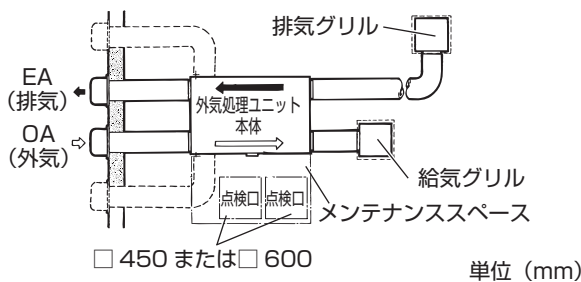
単位 (mm)



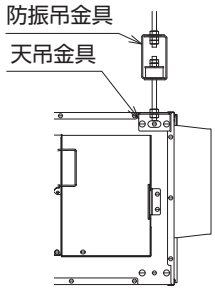
OA・EA 側ダクト距離

形名	距離
LGH-N35・N50 タイプ	1 m 以上
LGH-N80・N100 タイプ	2.5 m 以上

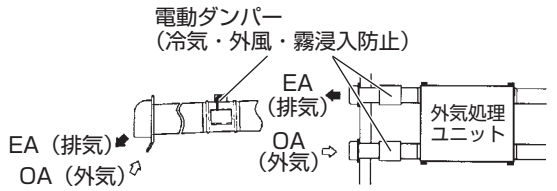
■ 破線のように室外側ダクトの方向が変換できます。



■ LGH-N80・N100 タイプにおいて防振吊金具を使用の場合は天吊金具を上側に付け替えて、ダクト施工、メンテナンスカバーの開閉の妨げにならないように取付けてください。



■ 寒冷地や外風の強い場所、霧の発生しやすい場所並びに常時局所排気を併用するフロアでのご使用時では、外気処理ユニットの運転停止時に冷気・外風・霧が浸入することがありますので電動ダンパーを併用してください。



■ メンテナンスのために以下の施工を実施してください。

- ・エアフィルター、ロスナイエレメント取出し側にはメンテナンスのための点検口 (□ 450 または □ 600) を必ず設けてください。
- ・加湿エレメント取出側にはメンテナンスのための点検口 (□ 450 または □ 600) および取出スペースを必ず設けてください。

■ 以下の施工の場合、外気処理ユニットと室内ユニットは同時に運転してください。(換気量の変化、製品外装に結露発生のおそれがあります)

- ・外気処理ユニットからの給気を天井内へ吹出し、室内ユニットにより室内へ供給する場合。
- ・外気処理ユニットの給気ダクトを室内ユニットへ直接接続し、室内ユニットより室内へ供給する場合。

■ 紫外線があたると断熱材が劣化するため、紫外線が直接断熱材に当たる場所には設置しないでください。

据付方法

この製品は室外側ダクト（EA、OA）の方向を変更することができます。
詳しくは「室外側ダクト（EA、OA）の方向を変更する場合」を参照してください。

据付け前の準備

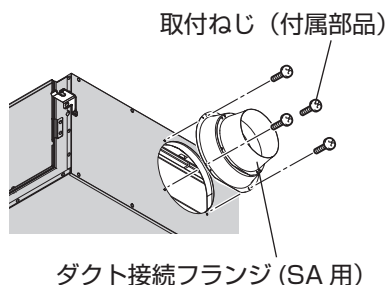
1 ダクト接続フランジの取付け

ダクト接続フランジを付属の取付ねじで本体に取付ける。

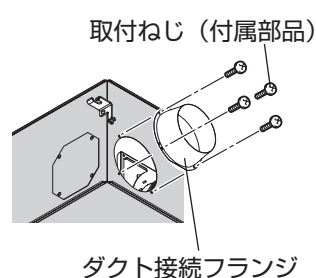
お願い

- ダクト接続フランジを取付ける前に本体内に異物（紙・ビニールなど）が入っていないことを確認してください。
- LGH-N35 タイプ用の SA ダクト接続フランジはφ 200 用ですがφ 150 へ変換可能な専用品です。SA 以外へは取付けないでください。（OA、EA、RA はφ 150 用です）

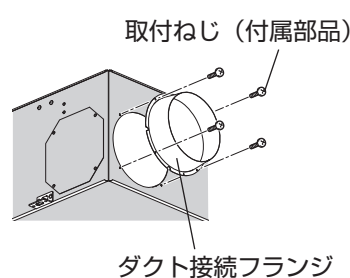
LGH-N35 タイプ (SA 側)



LGH-N50 タイプ



LGH-N80・N100 タイプ

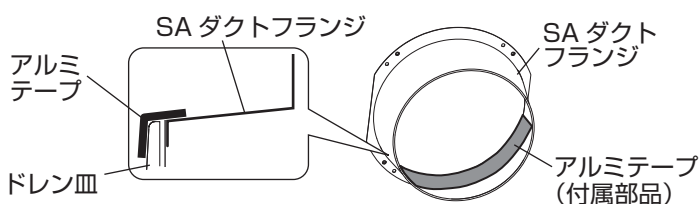


2 アルミテープの貼付け (SA ダクトフランジ接続時)

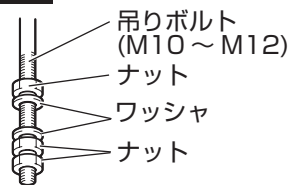
SA ダクトフランジ接続後、本体付属のアルミテープをフランジとドレン皿のすき間をふさぐように貼り付ける。

お願い

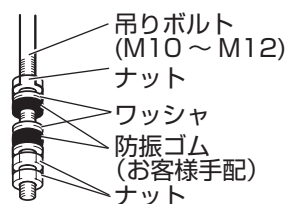
- すき間をふさがないと風漏れや加湿エレメント内部に詰りなどの異常が発生した場合に機外へ水漏れする原因となります。



3 ワッシャー・ナットの取付け



あらかじめ埋め込んである市販の吊りボルト（M10～M12）に左図のように市販のワッシャー（外径 M10 で 21mm 以上、M12 で 24mm 以上）・ナットを取付ける。



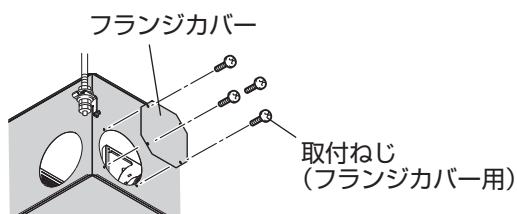
【防振ゴム（お客様手配）を使用する場合】

防振ゴム（お客様手配）を使用する場合は、強度低下の原因になる可能性がありますので、左記のような施工を推奨します。

室外側ダクト（EA・OA）の方向を変更する場合 LGH-N35・N50 タイプ

1 フランジカバーを付け換える

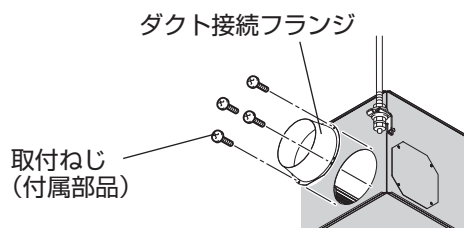
1. フランジカバーのねじ 4 本をはずし、フランジカバーをはずす。
2. はずしたねじ 4 本で付け換える面にフランジカバーを取付ける。



2 ダクト接続フランジの取付け

ダクト接続フランジを、付属の取付ねじで本体に取付ける。

据付け前の準備 1 を参照



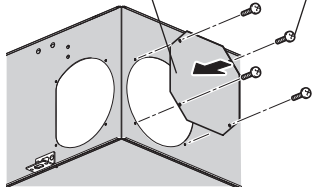
据付方法 つづき

室外側ダクト (EA・OA) の方向を変更する場合 LGH-N80・N100 タイプ

1 フランジカバーを付け換える

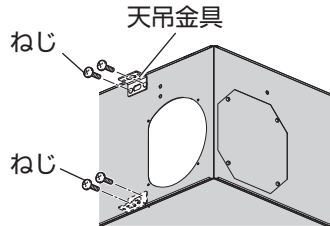
1. フランジカバーのねじ 4 本をはずし、フランジカバーをはずす。
2. はずしたねじ 4 本で付け換える面にフランジカバーを取付ける。

フランジカバー 取付ねじ (フランジカバー用)



2 天吊金具を上側に付け換える

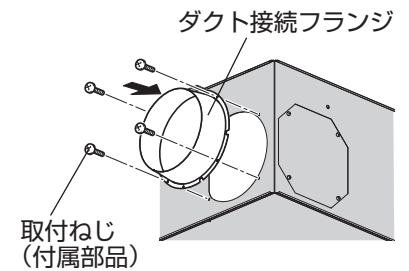
1. ねじ 2 本をはずし、天吊金具をはずす。
2. 本体上側に締め付けてあるねじ 2 本をはずす。
3. 天吊金具を上側へ取付ける。
4. 天吊金具をはずしたねじ穴にねじを締め付け、空気漏れを防止する。



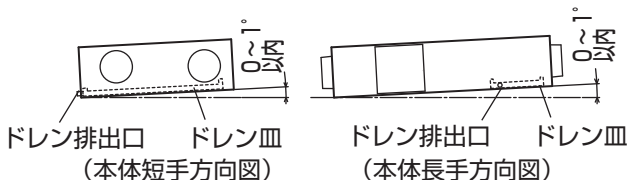
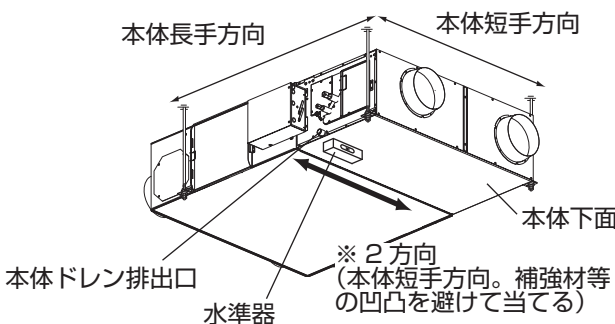
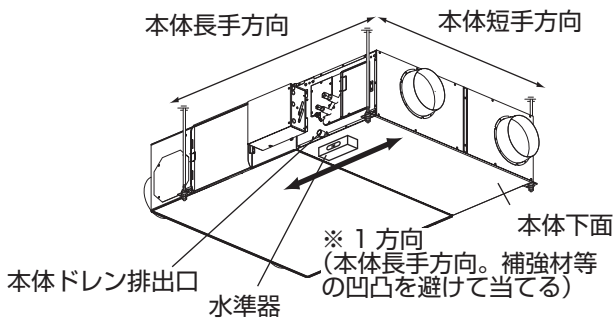
3 ダクト接続フランジの取付け

ダクト接続フランジを、付属の取付ねじで本体に取付ける

据付け前の準備 ①を参照



本体の固定



LGH-N35・N50 タイプの場合は天吊金具を吊りボルトに引っ掛ける。

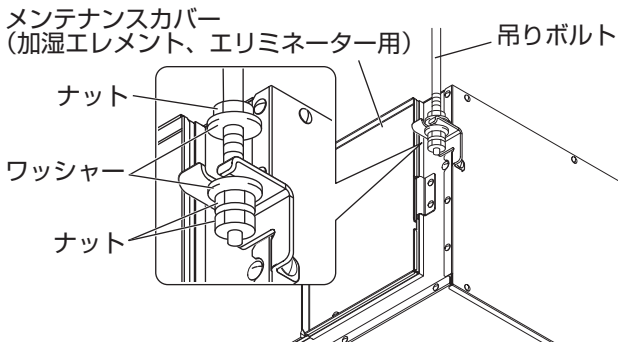
LGH-N80・N100 タイプの場合は吊りボルトを天吊金具の長穴に通す。

- 排水を確実にを行うため、本体の吊り下げ時、水準器を使用して必ず水平に吊り下げてください。確認箇所は左記に示す本体下面の本体ドレン排出口真下 (※1、2) に水準器を当て、水平になっていることを確認後、吊りボルトのナット (ゆるみ防止のためダブルナット) を確実に締め付け、本体と吊りボルトを固定してください。本体天吊取付範囲は**水平もしくはドレン排出口が下側に 1° 以内**にしてください。
- 上記取付けが守られないと、排水が排出されず残水のスケール成分 (白粉等) の発生および水漏れの原因となります。

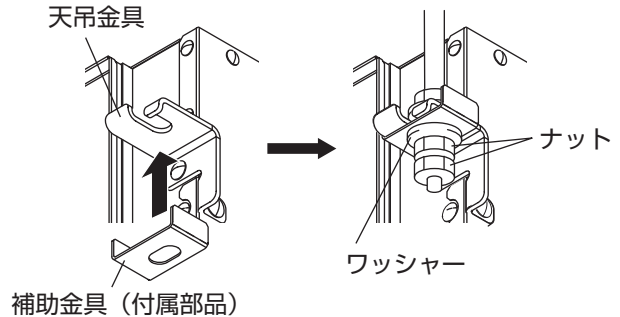
お願い

- 本体を吊り上げるとき、製品に無理な力を加えないでください。(製品に歪みが生じ、メンテナンスカバー等の密閉性が損なわれる原因となります)
- 吊りボルトがメンテナンスカバー (加湿エレメント、エリミネーター用) に掛からないようにしてください。
- 吊りボルトは振れ止め用耐震支持部材にて補強を行ってください。
- 天井内に本体を吊り上げたときに本体の下に人が通れるスペースがある場合は、必要に応じて本体下面のねじ先端に付属のねじキャップを取付けてください。

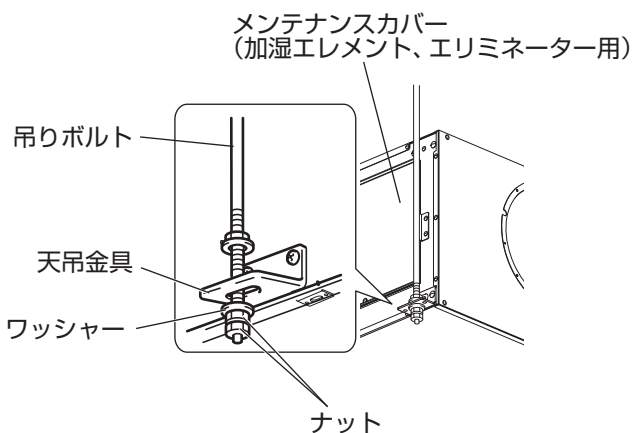
LGH-N35・N50 タイプ



LGH-N35・N50 タイプは同梱の補助金具を使用して天吊金具を長穴仕様に変更することが可能です。

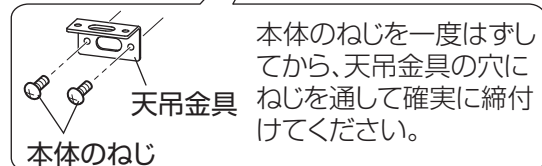
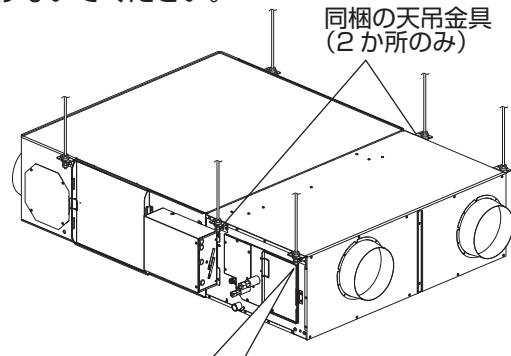


LGH-N80・N100 タイプ



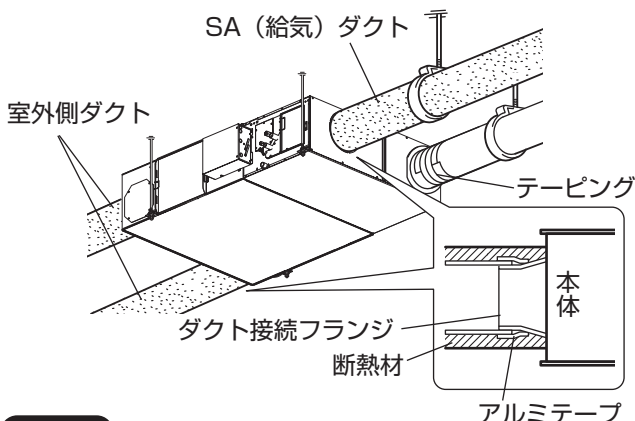
LGH-N80・N100 タイプは同梱の天吊金具 2 個を取付けて 6 点吊りが可能です。取付箇所は 5 ページの外形寸法図を参照して『天吊金具 (同梱品) 追加取付可能位置』に取付けてください。

※天吊金具 (同梱品) は中央の取付可能位置以外には取付けないでください。



本体のねじを一度はずしてから、天吊金具の穴にねじを通して確実に締付けてください。

ダクト接続



1. ダクトをダクト接続フランジにしっかり差し込み、風漏れのないよう市販のアルミテープを巻き付ける。
2. ダクトは外気処理ユニット本体に力が加わらないよう天井から吊る。
3. 室外側ダクト 2 本と SA (給気) ダクトおよびシステム部材には、結露防止のため必ず断熱材を巻く。
断熱材はダクト接続フランジの根元まで確実に巻いてください。上記取付けが守られないと結露して水漏れの原因となります。

お願い

- ダクト接続をする前にダクトの中に切り粉、異物 (紙・ビニールなど) が入っていないことを確認してください。
- ダクト接続工事の際に本体内のダンパー板には触れないでください。
- 外壁面の給排気口の位置はダクト径の 3 倍以上離してください。
- 下図のようなダクト工事はしないでください。風量低下や異常音発生の原因になります。

●極端な曲げ



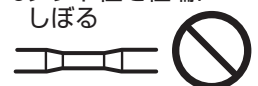
●多数の曲げ



●ダクト接続フランジのすぐそばでの曲げ

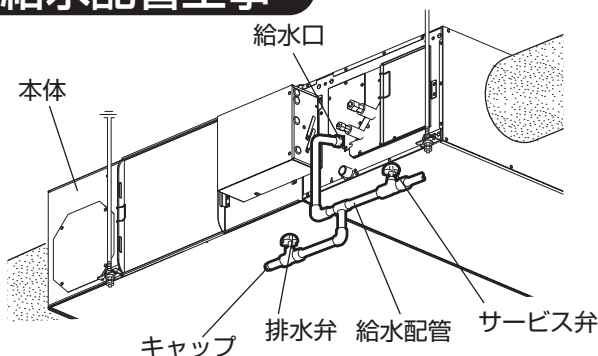


●ダクト径を極端にしぼる



据付方法 つづき

給水配管工事



換算のしかた

$$1\text{Pa} = 1.01972 \times 10^{-5} \text{kgf/cm}^2$$

目安として $1\text{kgf/cm}^2 \div 0.1\text{MPa}$ で換算する

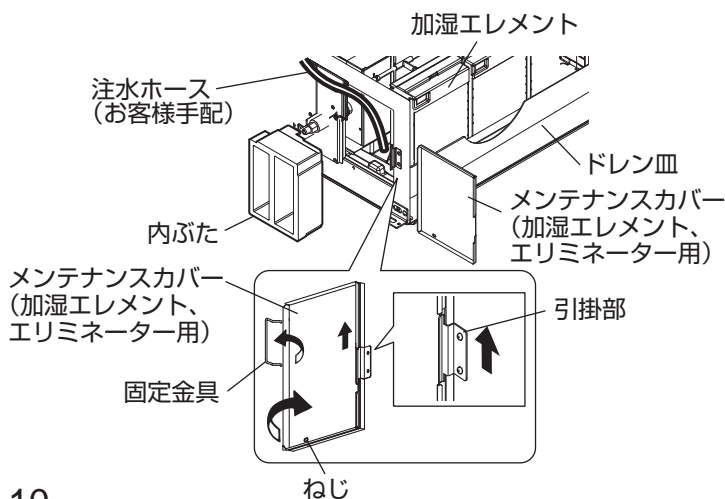
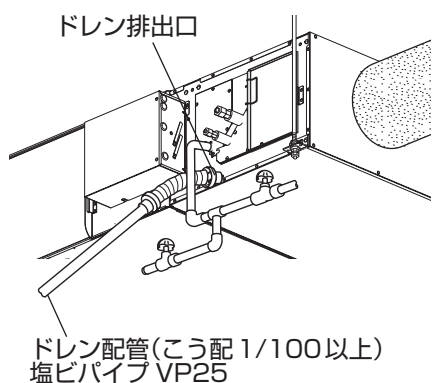
給水配管工事に際して給水配管と給水口（管用テーパおねじ R1/2）との間に、屈曲・振動などを吸収するため市販の可とう性のあるフレキシブルパイプ等を使用して接続する。

- 給水口と接続の際はねじの種類に注意し、ねじの種類をあわせて工事を行う。
- 給水は、市水または上水（井戸水は使用禁止）を使用し防露工事を行う。（凍結のおそれのある場合は凍結防止工事を行う）
- 給水圧力は水道管に接続する場合、シスターンタンクを使用する場合、いずれの場合も 0.05MPa ~ 0.49MPa、給水量は 350cc/分以上になるように設定する。
- 給水口近くにサービス弁・排水弁を必ず設置して給水配管を行う。
- 給水配管工事の際、切り粉などが入らないよう真水できれいに洗い流してから配管するか、配管途中の排水弁で水の白濁がなくなるまで十分予備排水を行う。（排水が不十分な場合は給水電磁弁の故障や加湿エレメントの機能低下の原因になります）
- 給水はシスターンタンク使用以外に水道管を直接接続することもできます。（地区により規制を受ける場合がありますので、あらかじめ所轄官庁にご相談ください）

お願い

- 給水配管工事は、所轄水道局（水道事業者）指定の給水装置工事業者の方が指定された配管材料を使用して施工してください。
- 給水温度は 5℃ ~ 40℃ 以下としてください。
- 排水弁およびサービス弁は点検口からとどく範囲に設置してください。
- 給水口に力が加わらないよう給水配管を固定してください。
- 配管工事前用切削油・洗浄液が混入しないようご注意ください。
- 給水配管およびドレン配管がメンテナンスカバー（ロスナイエレメント用および加湿エレメント、エリミネーター用）の開閉および加湿エレメント、エリミネーターの取り出しの妨げにならないよう配管してください。
- 切削油などの油類は加湿エレメントおよびドレン皿を劣化させますので供給水に切削油などが含まれないようにしてください。付着した場合には直ちに多量の水で洗い流してください。
- 給水配管工事後、製品運転開始まで製品へ通電されない場合は給水用サービス弁を必ず閉じてください。万が一、給水電磁弁に故障が発生した場合に、機外漏水の原因となります。

ドレン配管工事



1. 製品側のドレン排出口に付属のドレンホースを下向きに接続する。（排水性確保のため）
2. ドレン配管の先端は必ず排水可能なところまで導く。（11 ページを参照ください）

警告

- ドレン配管の先端を雨どい等に入れ
（大雪時、雨どいが凍結して排水されず、本体から水漏れする原因になります）
- ドレン配管の途中にドレンポンプ（ドレンアップメカ）を接続して排水を処理しない
（製品の異常停止や、ドレンポンプの故障により水漏れし、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になります）

3. 排水が排出されることを確認する。

- (1) メンテナンスカバー（加湿エレメント、エリミネーター用）をはずす。
 - ねじ 1 か所をゆるめ、固定金具をはずしてメンテナンスカバーを斜め 45° に開き、引掛部から上部に持ち上げて取りはずす。
- (2) 内ぶたを引き抜く。
- (3) 全ての加湿エレメント、エリミネーターに倒れや傾き、ズレがないことを確認する。

お願い

- 加湿エレメント、エリミネーターに倒れや傾き、ズレがあると水漏れの原因になる場合があります。必ず修正してください。
- (4) ドレン皿に約 1000cc 注水する。
- (5) ドレン配管の最終出口部で排水が排出されることを確認する。
- (6) 内ぶたとメンテナンスカバーを取付ける。

注意点と作業手順

- ドレン配管の施工時は以下に示す事柄を必ず守ってください。
- ドレン配管は下りこう配(1/100以上)となるようにしてください。
- ドレン配管は、イオウ系ガスが発生する下水溝には、直接入れないでください。(腐食や異臭の原因となります)
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- 水タレが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 室内を通るドレン配管は、必ず市販の断熱材(発泡ポリエチレン比重0.03、厚さ10mm以上)を巻いてください。
 - ① 最上階または高湿多湿の条件下で使用する場合は、上記の厚さ以上にする必要があります。
 - ② 客先指定の仕様がある場合は、それに従ってください。
- 施工後、ドレンが排出されていることをドレン配管最終出口部で確認してください。
- ドレン配管は室外側(排水側)が下りこう配(1/100以上)となるようにし、途中にトラップや山越えを作らないようにしてください。
- 排水が逆流するおそれがありますので、ドレン配管の途中で内径を縮小しないでください。
- ドレン配管の横引きは20m(高低差は含みません)以下にし、横引きでの合流は設けしないでください。
- ドレン配管が長い場合には途中で支持金具を設けてドレン配管の波打ちをなくしてください。通気管(エア抜き管)は絶対につけないでください。ドレンが吹出場合があります。
- ドレン配管は硬質塩ビパイプ一般管VP25(外径φ32)を使用してください。
- 必ず付属のドレンホースを使用し、外気処理ユニットのドレン口と現地配管の距離は図1に従い、工事を行ってください。ドレンホースの透明カフスは必ずドレン配管側(排水の流れの可視化するため)に接続してください。
- ドレンホースに無理な引張・圧縮荷重がかからないようにしてください。
- ドレンホースの接合部は日本水道協会規格品の硬質塩化ビニール管用接着剤を使用し、接合および止水してください。また、差込部が抜けかないよう付属の結束バンドにて固定してください。
- 集合配管の場合、図2のように本体ドレン出口より100mm以上低い位置に集合配管がくるようにしてください。
- ドレン配管の出口は臭気の発生するおそれのない場所に施工してください。
- 補助送風機を使用する場合、SA(給気)側ダクト内を負圧にしないようにしてください。負圧になると運転時に十分に排水がされず、水漏れ、加湿異常の原因になります。

注)・ドレン配管スペースが横方向に取れない場合は、軟質塩ビカフス(現地手配)等による接続をお勧めします。
・天井内が高湿多湿雰囲気(露点温度26℃以上)で長時間運転されると、ドレンホース部に結露する場合がありますので、そのような条件で使用する可能性がある場合は断熱材を貼付けるなどの処置をしてください。

作業手順(基本例)

1. 付属のドレンホース④を本体ドレン口に取付け、すき間が無いように奥まで差し込む。(折れ・詰まりが起こらないように45°曲げ以下で使用してください)(接着剤にて接着し、付属の結束バンド(小)⑥で締付ける)
2. 現地手配のドレン配管(塩ビパイプ、VP25)を取付ける。(接着剤にて接着し、結束バンド(小)⑥で締付ける)
3. 付属のドレンホース用断熱材⑤にて、本体ドレン口部を断熱し、付属の結束バンド(大)⑥で締付ける。(大・小の結束バンドは、かさならないように締め付けてください)
4. 断熱工事を行う。(塩ビパイプ、VP25 およびソケット(エルボ含))
5. 排水性を確認する。(10ページを参照ください)

図1「ドレンホースの取付方法」

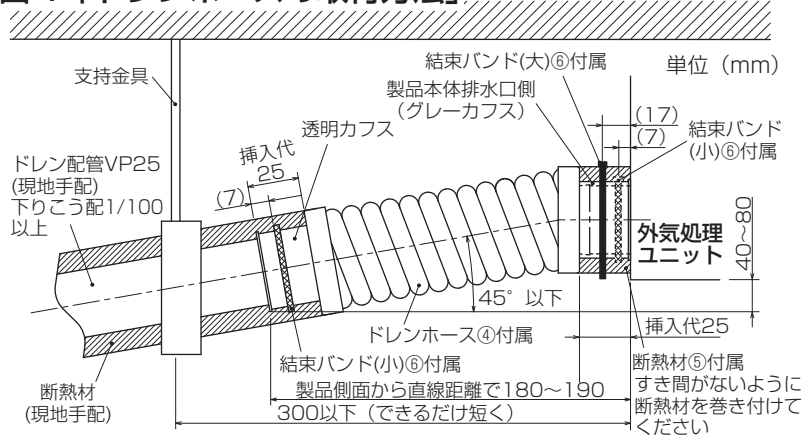
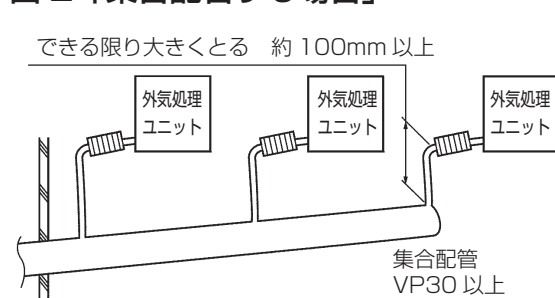


図2「集合配管する場合」

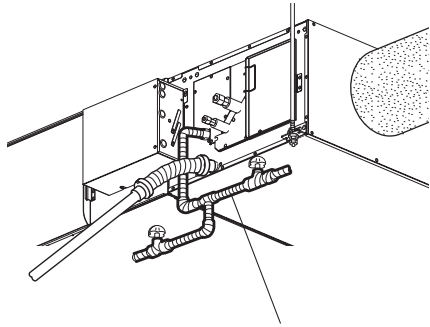


注意

- ドレン配管は、確実に排水するよう配管し、結露が生じないように保温してください。配管工事に不備があると水漏れし、家財等を濡らす原因になります。
- ドレンホース接続時に使用する接着剤は、必ず日本水道協会規格品の硬質塩化ビニール管用接着剤を使用してください。それ以外を使用すると、水漏れし、家財を濡らす原因になります。
- 集合配管につながる他製品の運転の影響により配管内部の圧力が上昇し、排水されにくくなる場合があります。配管内の圧力が上がらないようご注意ください。

据付方法 つづき

凍結防止工事



凍結防止用ヒーターを巻く

給水配管に凍結防止用ヒーター（市販品）を巻き凍結防止を行う。

- 凍結防止用ヒーターは外気処理ユニット本体（給水口）まで巻く。
- 冬期（加湿時期）に、凍結するおそれのある地域では必ずヒーターの電源を入れる。

警告

- 凍結のおそれのある地域では、給水配管に必ず凍結防止工事を行う
(電磁弁・配管などが破損し、水漏れの原因になります)

冷媒配管工事

警告

- 当社指定の冷媒以外は絶対に封入しない
法令違反の可能性や、使用時・修理時・廃棄時などに、破裂・爆発・火災などの発生のおそれがあります。
封入冷媒の種類は、機器付属の説明書あるいは銘板に記載されています。それ以外の冷媒を封入した場合の故障・誤動作などの不具合や事故などについては、当社は一切責任を負いません。

注意

- ドレン皿に冷凍機油などの油類を付着させない
(油類はドレン皿を劣化させるため、水漏れにより天井・床その他大切なものを濡らす原因になります)

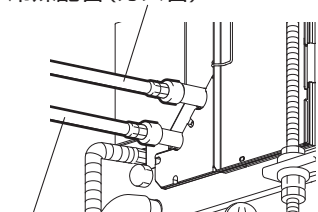
本工事を実施する場合は、必ずマルチエアコンの室外ユニット付属の説明書を合わせてお読みください。

- メンテナンス時のじゃまにならないよう配管工事を行う。
- 加湿エレメント、エリミネーターの引き出しができるように取出スペースを設けて配管してください。
- 冷媒配管は、外気処理ユニット配管出口に荷重がかからないよう支持金具を設けて支える。
- 冷媒配管（液管・ガス管）からの水タレ防止のため、十分な防露断熱工事を施工する。
- 設置環境に応じて冷媒配管の断熱材を強化する。強化しない場合は、断熱材表面に結露することがあります。
(断熱材…断熱温度 120℃・厚み 15 mm以上)

※最上階の天井裏など高温多湿の条件で使用する場合、さらに断熱の強化が必要となる場合があります。

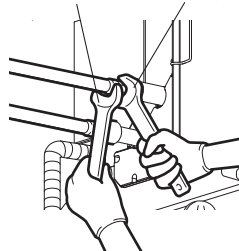
- 冷媒配管の断熱は耐熱ポリエチレンフォームで室内ユニットと断熱材および断熱材間の継目にすき間がないよう行う。(配管が露出していると結露や接触によるやけどの原因となります)
- 真空引きおよびバルブ開閉操作は、室外ユニットの据付工事説明書を参照してください。

冷媒配管(ガス管)



冷媒配管(液管)

トルクレンチ スパナ



1. この外気処理ユニットは、マルチエアコンの室外ユニットからの冷媒配管を途中で分岐し、各室内ユニットに接続する方式となっています。
2. 配管長さ、許容高低差等の制限は、室外ユニットの説明書を参照してください。
3. 配管の接続方法は、フレア接続です。

- フレアナット締め付け前にパイプと継手シート面に冷凍機油を薄く塗布する。
- 配管接続は必ずダブルスパナにて行う。
締め付トルクは次ページを参照してください。

4. 冷媒配管工事終了後、ガス漏れ検査を実施する。

LGH-N35RDF4-DMタイプは、シティマルチR2、リプレスマルチR2、ズバ暖マルチR2シリーズの室外ユニットのみ接続可能です。
その他室外ユニットとの接続はできません。
WR2シリーズについてはお問い合わせください。

注意点と作業手順

- 冷媒配管は JIS H 3300「銅及び銅合金継目無管」の C1220 のりん脱酸銅、配管継手は JIS B 8607 に適合したものを使用してください。また、冷媒配管は、下表に示す肉厚のものをご使用ください。また管および継手の内外面は美麗であり、使用上有害なイオウ、酸化物、ごみ、切粉等（コンタミネーション）の付着がないことを確認してください

φ 6.35 肉厚 0.8mm	φ 9.52 肉厚 0.8mm
φ 12.7 肉厚 0.8mm	φ 15.88 肉厚 1.0mm

上記以外の薄肉配管は、絶対に使用しないでください
冷媒配管の内部にコンタミネーションの付着があると冷凍機油劣化等の原因になります。

- 取付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともロウ付けする直前までシールしておく（エルボ等の継手はビニール袋等に包んだ状態で保管）
冷媒回路内にほこり、ごみ、水分が混入しますと、油の劣化・圧縮機故障の原因となります。
- フレア部に塗布する冷凍機油は、エステル油・エーテル油・ハードアルキルベンゼン油（少量）を使用する
鉱油が多量に混入すると冷凍機油劣化等の原因となります。
- 液冷媒にて封入する
ガス冷媒で封入するとポンペ内冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因になります。

- R410A 以外の冷媒は使用しない
R410A 以外（R22 等）を使用すると、塩素により冷凍機油劣化等の原因になります。
- 逆流防止器付真空ポンプを使用する
冷媒回路内に真空ポンプ油が逆流し、機器の冷凍機油劣化等の原因になります。
- 下記の工具は冷媒 R410A 専用ツールを使用する
冷媒 R410A 用として下表のツールが必要となります。お問い合わせはお近くの「三菱電機システムサービス」へご連絡ください。

工具名 (R410A 用)	
ゲージマニホールド	フレアツール
チャージホース	出し代調整用銅管ゲージ
ガス漏れ検知器	真空ポンプ用アダプター
トルクレンチ	冷媒充てん用電子はかり

- 工具類の管理に注意する
冷媒回路内にほこり、ごみ、水分等が混入しますと、冷凍機油劣化の原因になります。
- チャージングシリンダを使用しない
チャージングシリンダを使用すると冷媒の組成が変化し、能力不足等の原因となります。

作業手順

1. 外気処理ユニットのフレアナットおよびキャップを取りはずす
2. 液管・ガス管をフレア加工し、フレアシート面に冷凍機油（現地手配）を塗布
3. 冷媒配管を素早く接続
 - フレアナットは、必ずトルクレンチを用いダブルスパナにて下表の締付力で締める
 - フレアナットを締め付けの際、外気処理ユニット本体から出た冷媒配管が曲がらないよう行ってください
4. 冷媒配管接続口に断熱処理を確実に（14 ページをご確認ください）



警告

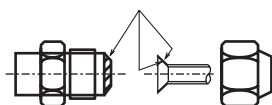
- フレアナット飛びに注意！
（内部に圧力がかかっています）
（フレアナットは以下の手順ではずす）
 - ① 「シュー」と音がするまでナットをゆるめる。
 - ② ガスが完全に抜けるまで（音がしなくなるまで）放置する。
 - ③ ガスが完全に抜けたことを確認してナットを取りはずす。

パイプ径 (mm)	A 寸法 (mm)		
	R410A 用フレアツール	従来 (R22・R407C) のフレアツール使用の場合	
	リジット (クラッチ式)	インベリアル (ウイングナット) 式	
φ 6.35 (1/4")	0 ~ 0.5	1.0 ~ 1.5	1.5 ~ 2.0
φ 9.52 (3/8")	0 ~ 0.5	1.0 ~ 1.5	1.5 ~ 2.0
φ 12.7 (1/2")	0 ~ 0.5	1.0 ~ 1.5	1.5 ~ 2.5
φ 15.88 (5/8")	0 ~ 0.5	1.0 ~ 1.5	1.5 ~ 2.5

※従来のツールを使って冷媒 R410A 用のフレア加工をする場合は、上記を参考に加工してください。
出し代調整用の銅管ゲージを使用すれば、A 寸法が確保できます。フレア加工後に B 寸法の確認をしてください。

フレアシート面全周にエステル油またはエーテル油またはハードアルキルベンゼン油を少量塗布

※ねじ部分には塗布しないでください。
（フレアナットがゆるみ易くなります）



※フレアナットは、必ず本体に取付けられているものを使用してください。（市販品を使うと割れることがあります）

銅管径 (mm)	フレア寸法 φB 寸法 (mm)	トルクレンチによる適正な締付力 N・m (kgf・cm)
φ6.35	8.7~9.1	14~18 (140~180)
φ9.52	12.8~13.2	34~42 (340~420)
φ12.7	16.2~16.6	49~61 (490~610)
φ15.88	19.3~19.7	68~82 (680~820)

● 配管サイズ

形名	液管	ガス管
LGH-N35RDF ₄ タイプ, LGH-N50RDF ₄ タイプ LGH-N80RDF ₄ タイプ	φ6.35	φ12.7
LGH-N100RDF ₄ タイプ	φ9.52	φ15.88

据付方法 つづき

冷媒配管接続口についてのお願い

不完全な断熱施工を行いますと冷媒配管の表面が結露して露タレなど発生し、天井、床その他大切なものを濡らす原因となりますので以下の点にご注意ください。

現地接続冷媒配管の断熱

- 冷媒配管（液管・ガス管）からの水タレ防止のため、十分な防露断熱工事を施工する。
- 設置環境に応じて冷媒配管の断熱材を強化する。強化しない場合は、断熱材表面に結露することがあります。
（断熱材…断熱温度120℃・厚み15mm以上）

※最上階の天井裏など高温多湿の条件で使用する場合、さらに断熱強化が必要となる場合があります。

- 冷媒配管の断熱は耐熱ポリエチレンフォームで室内ユニットと断熱材および断熱材間の継目にすき間がないよう行う。（配管が露出していると結露や接触によるやけどの原因となります）

【参考】配管温度（液管・ガス管）

定格風量（強ノッチ）で下記空気条件での冷房運転時
外気空気条件 DB35℃、WB24℃

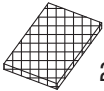



室内空気条件 DB27℃、WB19℃

室外ユニットの運転負荷が大きい場合：10℃程度になります。

室外ユニットの運転負荷が小さい場合：5℃程度になります。

現地冷媒配管接続口 断熱処理のお願い

■下記同梱部品を使用しますので、据付前に確認してください。

断熱材	断熱パイプ <small>（ガス管用 短い）</small>	断熱パイプ <small>（液管用 長い）</small>	結束バンド
 2個	 1個	 1個	 4本

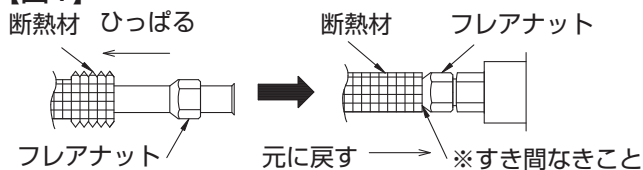
現地手配品

（冷媒配管
配管施工用テープ）

■冷媒配管接続完了後、必ず接続口（フレア接続部）を下記のように付属の断熱パイプを用いて断熱施工してください。

- ・断熱パイプと室内ユニット本体および断熱パイプと現地冷媒配管にすき間がないように注意してください。
- ・断熱工事が不完全な場合、結露による露タレ等が発生し水漏れの原因になります。

【図1】



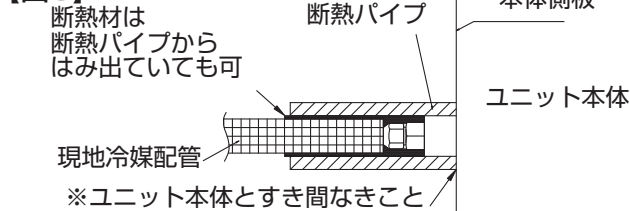
1. 現地冷媒配管にフレアナットを差し込み、フレア拡管する際に断熱材を引っ張り拡管後、銅管が露出しないように断熱材を元に戻す。（図1参照）
※結露のおそれがあります。

【図2】



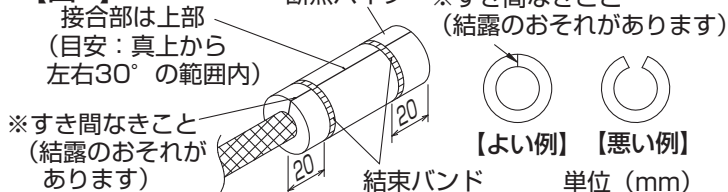
2. フレア接続部、現地冷媒配管部に断熱材を巻き付け（すき間なきこと）市販の配管施工用テープで仮固定する。（3項の断熱パイプで挟んで本固定します）（図2参照）

【図3】

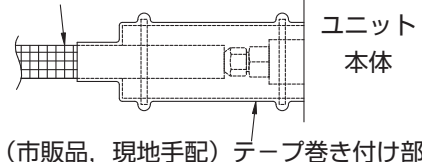


3. フレア部分に断熱パイプを巻き付け、結束バンドで各断熱パイプを固定する。（図3、4参照）
※断熱パイプ接合面にすき間が無いように必ず工事してください。（フレア部分が結露するおそれがあります）

【図4】



【図5】 現地冷媒配管



4. 断熱パイプと現地冷媒配管との接合部および断熱パイプ接合部が露出しないように、市販の配管施工用テープを巻き付ける。（図5参照）

電気工事

この製品はシステム構成により電気工事の方法が異なります。
それぞれ必要な部分の電気工事を行ってください。

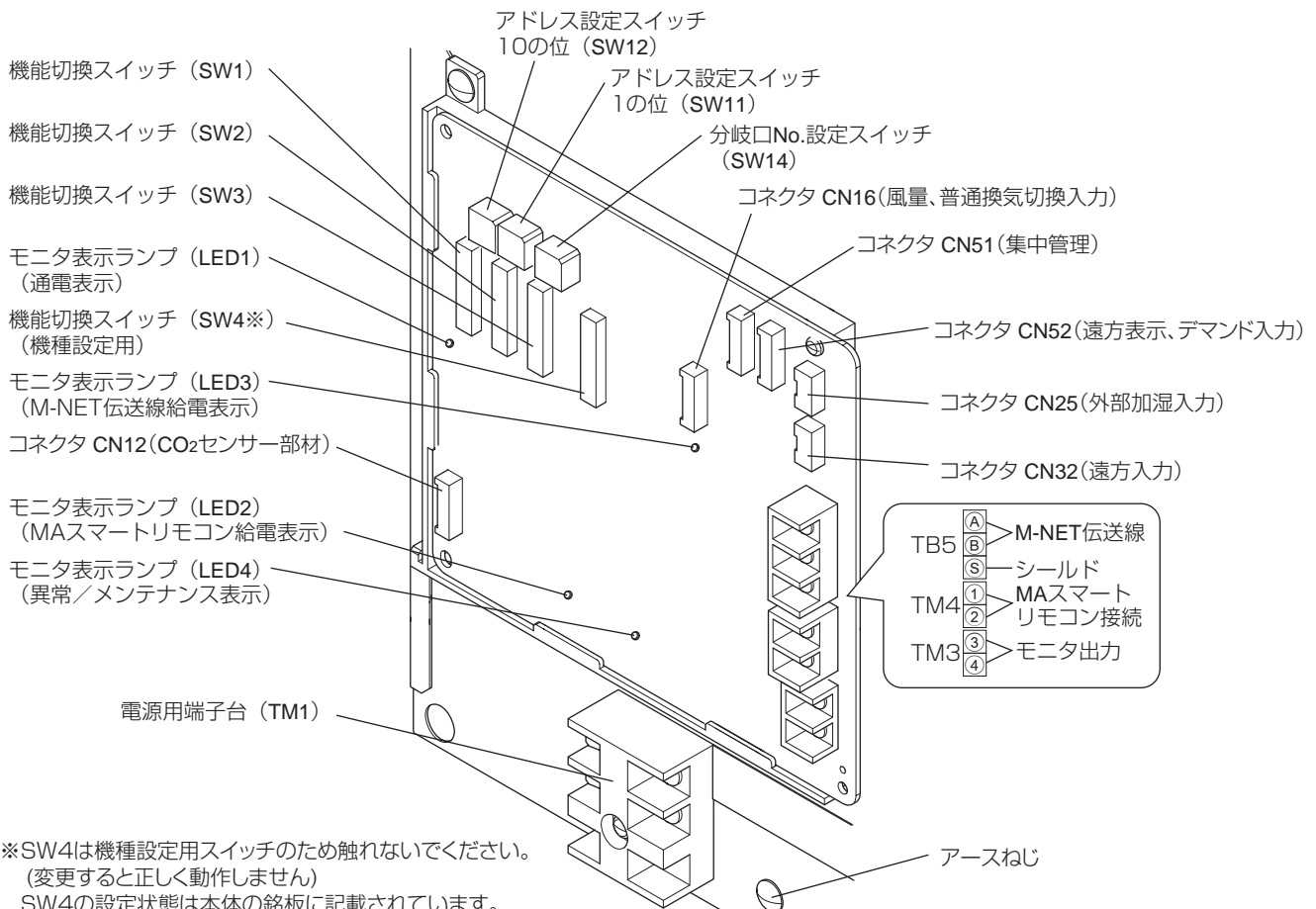
警告

- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付工事説明書に従って取付け、必ず専用回路を使用する
(電源回路容量不足や取付不備があると感電、火災の原因になります)
- 各配線は、張力が掛からないように配線工事をする (断線したり、発熱・火災の原因になります)
- アースを確実に取付ける (アースを取付けないと故障や漏電のときに感電の原因になります)
- コントロールボックスカバーは施工後、必ず取付ける
(ほこり・湿気などにより漏電・火災の原因になります)

お願い

1. 電気配線工事は電力会社の認定工事店で行ってください。
2. 電源には、必ず漏電遮断器を取付けてください。
3. 端子台の配線はねじに緩みがないよう指定のトルク以下で確実に行って下さい。
4. 天井裏内の配線 (電源線・リモコン線・伝送線) はネズミ等にかじられて切断する場合がありますため、できる限り鉄管等の保護管内を通してください。
5. MA スマートリモコン用・M-NET 伝送線接続用端子台には 100V、単相 200V 電源を接続しないでください。(故障します)
6. 外気処理ユニットとリモコンおよび室外ユニットを必ず配線接続してください。
7. 伝送線とリモコン線、および電源線はそれぞれ 5cm 以上離して配線してください。
8. 電源線・伝送線等はメンテナンスのじゃまにならないように配線工事をしてください。

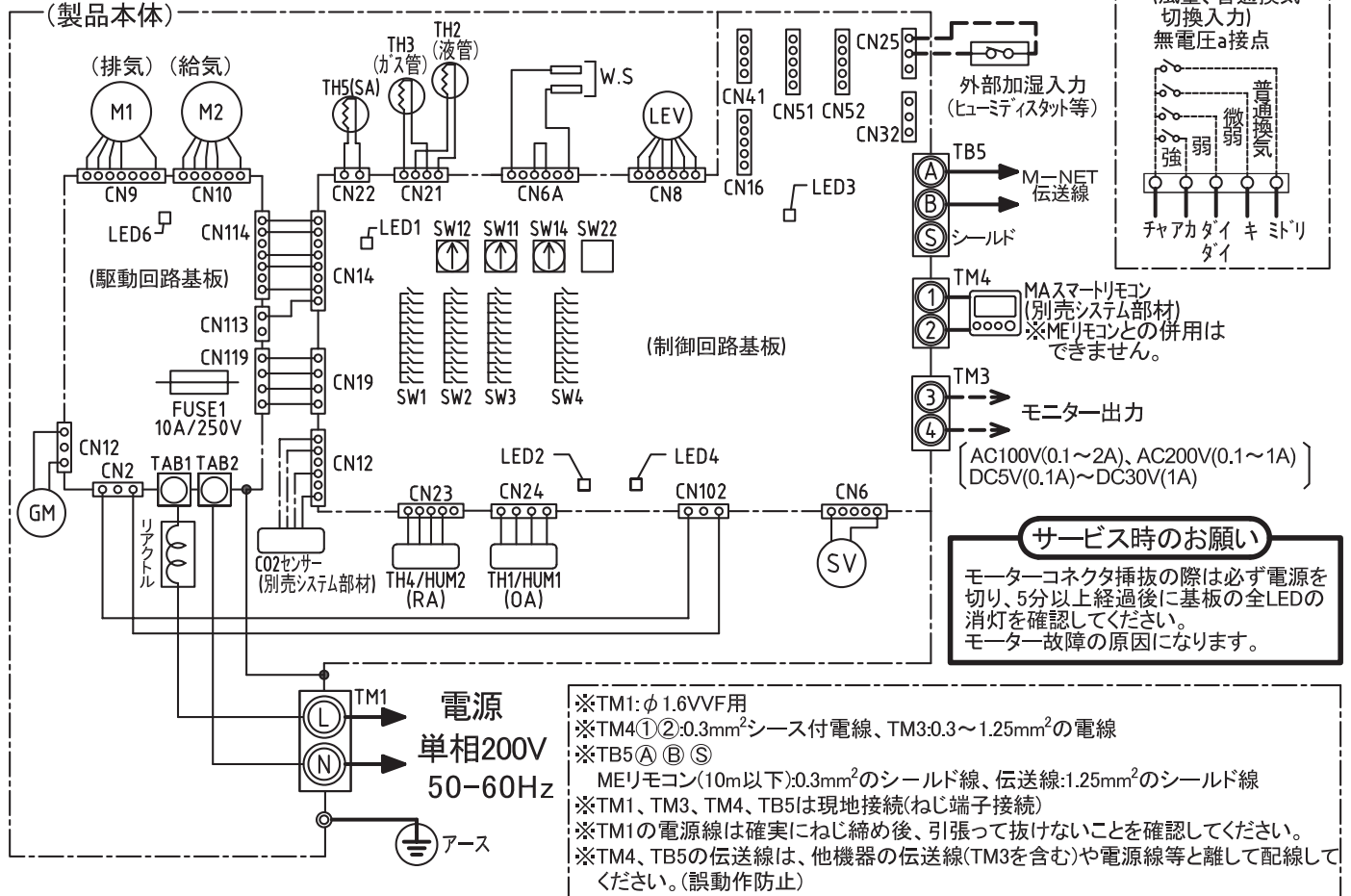
コントロールボックス内の名称



電気工事 つづき

結線図

※太線及び破線部分は有資格者である電気工事士にて施工してください。
 ※漏電保護用に電源側に漏電ブレーカーを設けてください。



記号説明

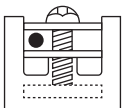
記号	名称	記号	名称	記号	名称
TM1	端子台(单相200V)	LED3	M-NET伝送線給電表示	SV	給水電磁弁
TM3	端子台(モニター出力)	LED4	異常/メンテナンス表示	W.S	水検知センサー
TM4	端子台(MAスマートリモコン)	LED6	送風機用電動機通電表示	CN12	コネクタ(CO2センサー部材)
TB5	端子台(M-NET伝送線接続)	M1/M2	送風機用電動機(排気/給気)	CN16	コネクタ(風量、普通換気切換入力)
SW1~4	機能切換スイッチ	GM	普通換気切換用ダンパー板電動機	CN25	コネクタ(外部加湿入力)
SW11	アドレス設定スイッチ(1の位)	TH1/HUM1	外気(OA)温湿度センサー	CN32	コネクタ(遠方入力)
SW12	アドレス設定スイッチ(10の位)	TH2	直膨コイル液管サーミスター	CN41	コネクタ(HA)
SW14	分岐口No.設定スイッチ	TH3	直膨コイルガス管サーミスター	CN51	コネクタ(集中管理)
SW22	メンテナンス用スイッチ	TH4/HUM2	還気(RA)温湿度センサー	CN52	コネクタ(遠方表示、デマンド入力)
LED1	通電表示	TH5	給気(SA)サーミスター		
LED2	MAスマートリモコン給電表示	LEV	電子リア式膨張弁		

端子台 TM4、TB5 の接続方法

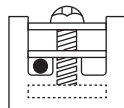


電源を絶対に接続しないでください

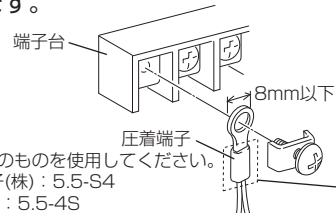
正しい接続箇所



間違った接続箇所



圧着端子
 接続例

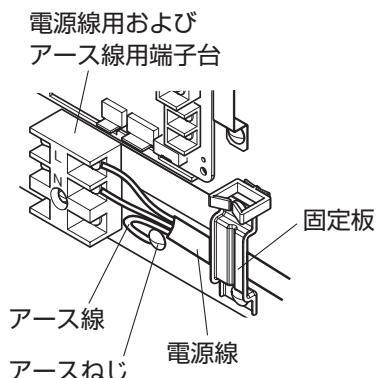


※外径が8mm以下のものを使用してください。
 例) 日本圧着端子(株): 5.5-S4
 日本端子(株): 5.5-4S
 絶縁被覆がない場合は必ず絶縁処理をする

共通工事

※ねじ3本をはずしてコントロールボックスカバーをはずす。

電源線を接続する



1. 電源線（単線φ 1.6 例 VVF）を電源用端子台に確実に差し込み、端子台のねじで固定する。
2. アース線は、必ずアースねじに固定する。

お願い

- 電源線と伝送線、リモコン線などの制御配線は別々の引出口から引き出してください。また引き出し後は誤動作防止のため、電源線、伝送線、リモコン線などの配線はそれぞれ5cm以上離して配線してください。
- 電源線をMAスマートリモコン用端子台TM4、M-NET伝送線接続用端子台TB5に接続しないよう注意してください。基板が破損します。
- 電源線とアース線は必ず固定板を用いて固定してください。
- 接続後、電源線、アース線を引っ張って抜けないことを確認してください。
- 電源（TM1）への接続は確実に行ってください。
- 端子台のねじは1.2～1.5N.mの範囲で締め付けてください。規定値より大きいトルクで締めると基板が破損するおそれがあります。

選択工事

次のようなシステム構成ができます。必要な部分を接続してください。
システム構成によっては制約事項があります。以下の注意事項を守ってください。

システム接続時の注意事項

この製品はシステム構成時にユニットおよびリモコンの新旧同時接続*ができません。

* 新：LGH-NRDF4形およびPAR-44MA以降のMAスマートリモコン

旧：LGH-NRDF3形以前およびPAR-43MA以前のMAスマートリモコンおよびMAスムーズリモコン

<p>① 同一グループ内にLGH-NRDF4形と旧機種（LGH-NRDF3形）および床置ビルトイン形（LB-DF8形）の同時接続はできません。</p>	
<p>② MAスマートリモコンを使用する場合、新旧リモコンの同時接続はできません。</p>	
<p>③ MAスマートリモコンをご使用される場合、旧リモコンは接続できません。</p>	<p>④ ジーニアスリモコン、ロスナイコンパクトリモコンは接続できません。</p>

※ MEリモコンをご使用の場合は、MAスマートリモコンよりも使用できる機能が制限されます。詳細は技術資料をご参照ください。

※ 高顕熱形室外ユニットをご使用の場合、同一冷媒系統内に高顕熱運転対応外気処理ユニット（LGH-NRDF2～NRDF4形、LB-DF7～DF8形）以外の外気処理ユニットは接続できません。

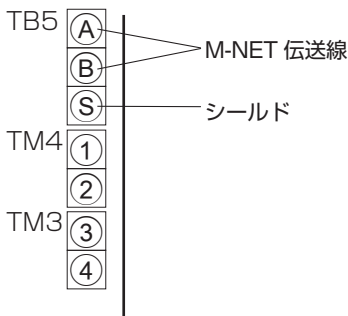
※ 以下の施工の場合、外気処理ユニットと室内ユニットは同時に運転してください。（換気量の変化、製品外装に結露発生のおそれがあります）

- ・ 外気処理ユニットからの給気を天井内へ吹出し、室内ユニットより室内へ供給する場合
- ・ 外気処理ユニットの給気ダクトを室内ユニットへ直接接続し、室内ユニットより室内へ供給する場合

※ 本製品ではON/OFFリモコン（PAC-YT40ANR-W1）の緊急停止信号は使用できません。

1	伝送線（M-NET 伝送線）と接続する場合	18
2	ヒューミディスタット等と接続する場合	18
3	MA スマートリモコンを接続する場合	19
4	端子台より、運転信号、異常信号等を取り出す場合	19
5	外部で強/弱/微弱運転切換をする場合（市販のCO ₂ センサー等を接続する場合）	20
6	外部で普通換気（バイパス換気）切換をする場合	21
7	遠方入力を使用する場合	21

1 伝送線（M-NET 伝送線）と接続する場合



伝送線……室外ユニットまたは室内ユニット、ME リモコン（使用する場合のみ）と外気処理ユニットをつなぐ（無極性）

ME リモコン線（10m 以下）

種類…シールド線 MVVS

線数…2 芯ケーブル

線径…0.3mm²

※ 10m を超える場合、ME リモコンの据付工事説明書に従い延長してください。

室外ユニット・室内ユニット伝送線

種類…シールド線 CVVS・MVVS

線数…2 芯ケーブル

線径…1.25mm²

最大給電距離…200m 以下※

最遠端距離…1km 以下※

※最大給電距離、最遠端距離については、空調冷熱ネットワーク設計マニュアル（WIN2K「<https://www.mitsubishielectric.co.jp/ldg/wink/ssl/top.do>」よりダウンロード）をご確認ください。ご不明点は販売窓口までお問い合わせください。

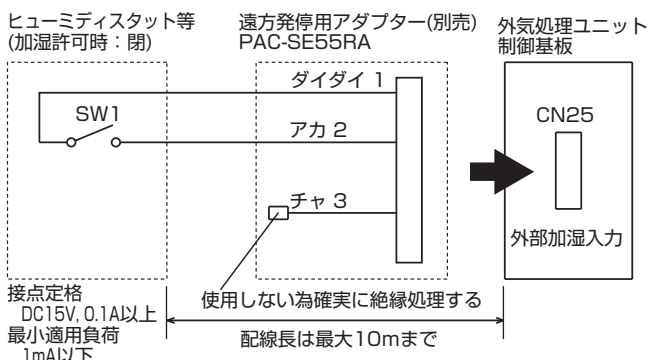
メモ

- ME リモコンと MA スマートリモコンの併用はできません。

お願い

- M-NET 伝送線の接続方法は 16 ページを参照してください。
- ノイズ対策のため、必ずシールド線を使用してください。
- 伝送線用端子台には 100V、単相 200V 電源を接続しないでください。（故障します）

2 ヒューミディスタット等と接続する場合



回路基板コネクタ CN25 に別売の遠方発停用アダプター（PAC-SE55RA）を使用して、①ダイダイ、②アカにヒューミディスタット等を接続する。

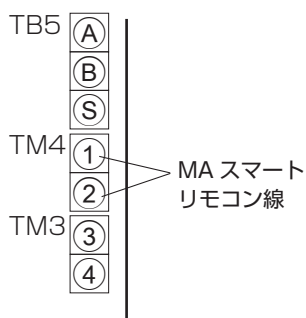
※ MA スマートリモコンを使用する場合、「加湿自動」選択時のみ本機能は有効になります。

※ 1 個のヒューミディスタット等を複数台の外気処理ユニットで使用することはできません。基板が破損する原因となります。

※ 機能設定「**14** 外部加湿入力設定」の設定が必要になります。

※ 外部加湿機能だけで加湿制御を行いたい場合は機能設定「**13** 加湿運転時 目標湿度設定」で「目標湿度設定無効」に設定してください。

3 MA スマートリモコンを接続する場合



リモコン線……MA スマートリモコンからのリモコン線を MA スマートリモコン用端子台 (TM4) の①② (無極性) に確実に接続する。

種類…2 芯シース付ケーブル

線径…0.3mm²

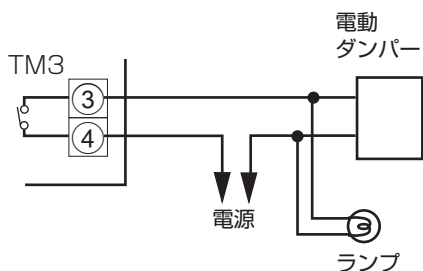
- ・以下の別売ケーブルを使用することができます。
PAC-YT81HC(10m), PAC-YT82HC(20m)
- ・リモコンは2台まで接続することができます。2台目も同様に接続してください。
- ・外気処理ユニットとリモコン間、および2台のリモコン間の総延長は合計で200m以内としてください。

お願い

- リモコン線の接続方法は16ページを参照してください。
- 電源線および M-NET 伝送線を接続しないよう注意してください。

4 端子台より、運転信号、異常信号等を取り出す場合

例：給気用送風機運転信号で電動ダンパーを連動させる場合



結線図を参照して端子台 (TM3) の③と④に接続する。設定により、以下の信号のいずれかを取り出すことができます。

- ・運転信号 (工場出荷時)
- ・暖房信号
- ・異常信号
- ・加湿異常信号
- ・排気用送風機運転信号
- ・冷房信号
- ・普通換気信号
- ・サーモ ON 信号
- ・加湿信号
- ・給気用送風機運転信号

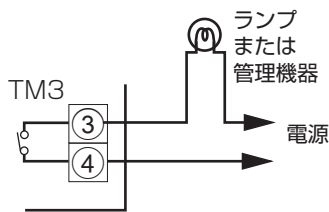
※ 設定方法は、「機能設定」で以下の項を参照してください。

12 モニター出力設定

27 給気・排気用送風機モニター出力設定

メモ

例：異常信号でランプを表示させる場合



- パルス信号、遠方入力信号で運転/停止操作を行う場合、入力信号に対する運転信号の応答時間は最大 0.2 秒遅れます。
- AC 100V 2A / AC 200V 1A を超える機器は接続できません。
- 複数の信号を取り出す場合は、別売の M 制御遠方表示キット (PAC-YU80HK) を使用してください。

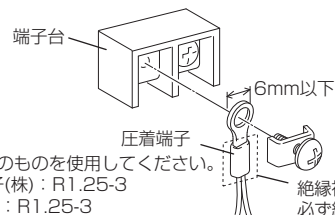
お願い

- 端子台のねじは 0.2 ~ 0.5N・m の範囲で締め付けてください。規定値より大きいトルクで締めると基板が破損するおそれがあります。
- 端子台の1か所に2本以上の電線を接続する場合、圧着端子などを使用して確実に接続してください。
- 電動ダンパー、補助送風機等を連動させる場合、必ず取り出す信号を連動させる送風機に合わせてください。加湿エレメント乾燥運転で加湿エレメントが乾燥しないなどの原因となります。

例：給気側風路に補助送風機を設置する場合、端子台の信号出力を「給気用送風機運転モニター」に設定してください。

- 補助送風機を使用する場合、SA (給気) 側ダクト内を負圧にしないようにしてください。負圧になると運転時に十分に排水がされず水漏れ、加湿異常発報の原因になります。
- 補助送風機の設置は、カタログ・納入仕様書に記載の各風量設定時にける風量 - 圧力損失曲線の範囲でご使用ください。開放風量以上の範囲で使用された場合、モーターの異常発熱、羽根損傷などの故障や製品不具合につながるおそれがあります。

圧着端子接続例



※ 外径が6mm以下のものを使用してください。
例) 日本圧着端子(株) : R1.25-3
日本端子(株) : R1.25-3

絶縁被覆がない場合は必ず絶縁処理をする

5 外部で強 / 弱 / 微弱運転切換をする場合 (市販のCO₂センサー等を接続する場合)

市販のCO₂センサー等を使用し、図のように風量・普通換気切換入力 (CN16) へ別売の遠方表示用アダプター (PAC-SA88HA) を差し込んで結線する。

※ 24時間換気、ナイトパージで運転中は風量・普通換気切換入力で風量を切り換えることはできません。

※ 風量・普通換気切換入力による風量操作は、MAスマートリモコン等の表示には反映されません。

※ 「6 マルチ換気モード設定」の設定は、風量・普通換気切換入力よりも優先されます。

※ グループ内に複数の外気処理ユニットを接続する場合、外気処理ユニットごとに風量・普通換気切換入力の接続を行ってください。接続した外気処理ユニットのみ風量が切り換ります。

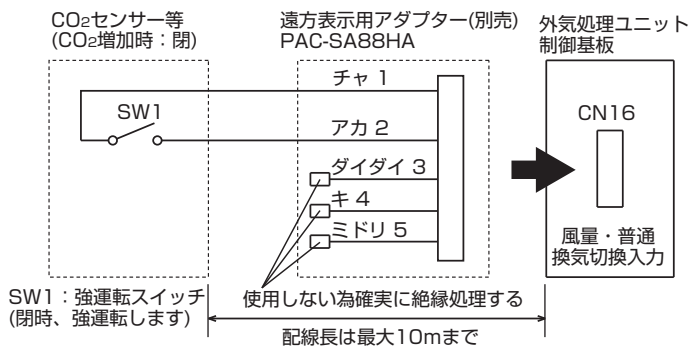
※ 風量・普通換気切換入力で外気処理ユニットの運転 / 停止は行えません。

(CO₂センサー等の信号は運転中に有効となります)

※ 業務用ロスナイシステム部材のCO₂センサーとの併用はできません。

※ 「6 外部で普通換気 (バイパス換気) 切換をする場合」との併用は可能です。

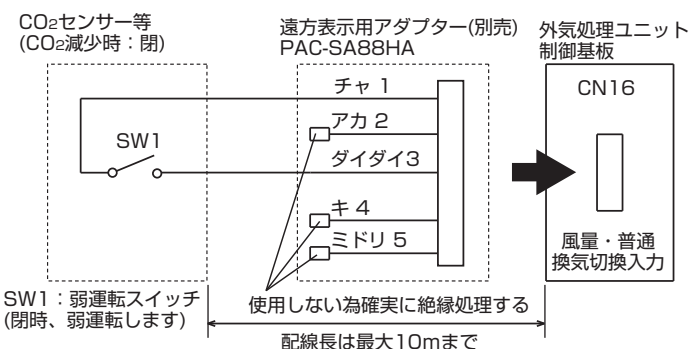
■外部で強制強運転させる場合



SW1「ON」時はリモコンの設定に関係なく外気処理ユニットの風量は強運転となります。

常時弱または微弱運転で換気を行い、外部のセンサーで室内空気の汚れを検知したときに強運転になるような使い方をします。

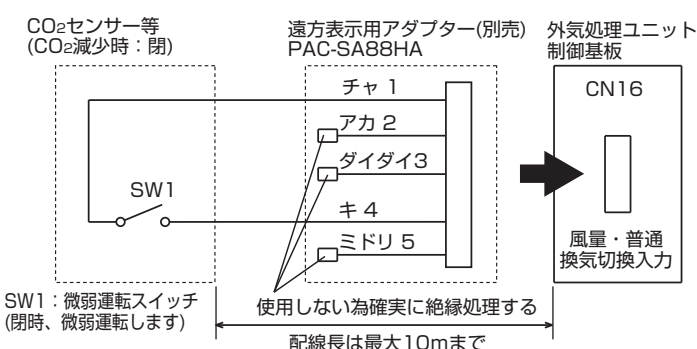
■外部で強制弱運転させる場合



SW1「ON」時はリモコンの設定に関係なく外気処理ユニットの風量は弱運転となります。

常時強運転で換気を行い、外部のセンサーで室内空気の汚れが少ないときに弱運転となるような使い方をします。

■外部で強制微弱運転させる場合

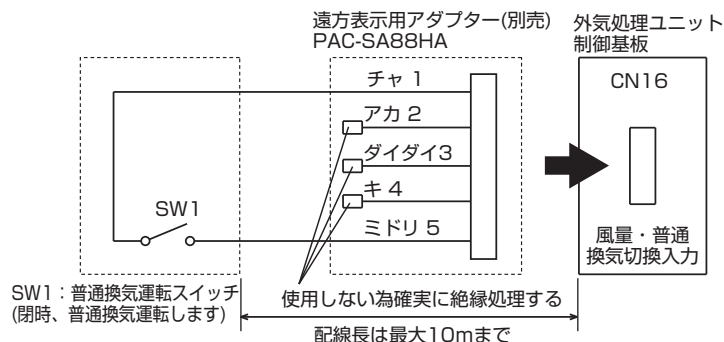


SW1「ON」時はリモコンの設定に関係なく外気処理ユニットの風量は微弱運転となります。

常時強運転で換気を行い、外部のセンサーで室内空気の汚れが少ないときに微弱運転となるような使い方をします。

6 外部で普通換気（バイパス換気）切換をする場合

風量・普通換気切換入力（CN16）へ別売の遠方表示用アダプター（PAC-SA88HA）を差し込んで結線する。



SW1「ON」時はリモコンの設定に関係なく外気処理ユニットの換気モードは普通換気となります。

※風量・普通換気切換入力による換気モード操作は、MAスマートリモコン等の表示には反映されません。

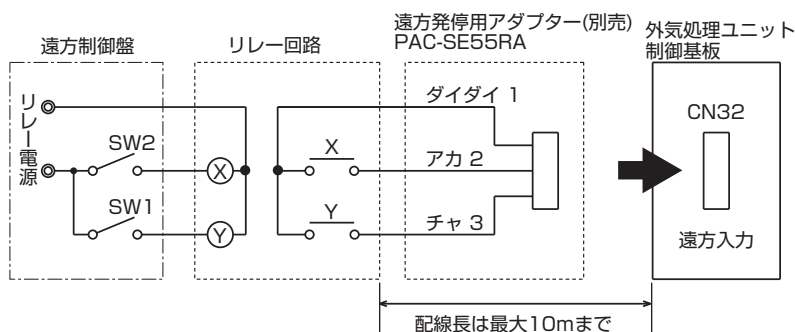
※外気相対湿度が80%以上、または暖房時外気温度が15℃以下、冷房・送風時8℃以下のときは熱交換換気となります。

※グループ内に複数の外気処理ユニットを接続する場合、外気処理ユニットごとに風量・普通換気切換入力の接続を行ってください。接続した外気処理ユニットのみ換気モードが切り換ります。

※「5 外部で強 / 弱 / 微弱運転切換をする場合」との併用は可能です。

7 遠方入力を使用する場合

遠方入力（CN32）へ別売の遠方表示用アダプター（PAC-SE55RA）を差し込んで結線する。



SW1 「ON」時はリモコンでの運転 / 停止ができません。

SW2 SW1「ON」時はSW2のONで運転、SW2のOFFで停止ができます。

SW1：遠方 / 手元切換スイッチ

SW2：発停スイッチ

X、Y：リレー（接点定格DC15V、最小適用負荷1mA以下）

お願い

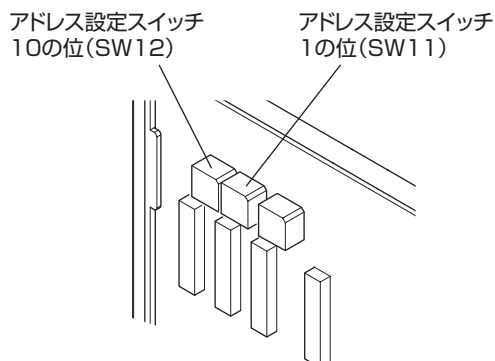
- 工場出荷時の設定では、遠方入力で製品を停止させた場合、停止から5分後に加湿エレメント乾燥運転を自動的に行います。緊急停止で使用するなど、遠方入力で停止中に送風機を動かしたくない場合は、機能設定「8 緊急停止設定」(SW2-7)を参照してください。またシステムコントローラなどの集中管理機器を設置する場合、緊急停止は集中管理機器から行ってください。
- グループ内に複数の外気処理ユニットを接続する場合、必ずMAスマートリモコンを使用してください。また遠方入力はグループ内の親機（アドレス設定が一番若い外気処理ユニット）にのみ接続してください。
- システムコントローラなどの集中管理機器で手元リモコン操作禁止を設定した場合、遠方入力は無効となります。
- 本体の運転・停止を元電源の「入」「切」で行わないでください。製品が故障する可能性があります。

機能設定

設定変更時は外気処理ユニットと接続されている室外ユニットの電源を入れ直してください

アドレス設定のしかた

必ず元電源を切った状態で行ってください。



外気処理ユニットの M-NET アドレスを設定します

(アドレスの決めかたについては現地のシステムにより異なりますので技術資料等を参照してください)

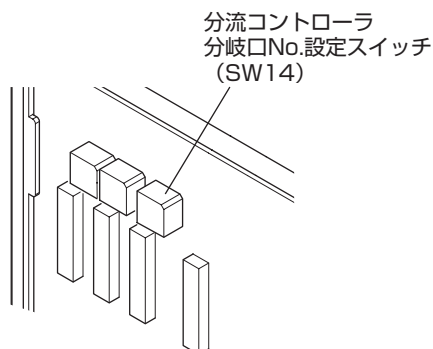
1. コントロールボックスカバーをはずす。
 - 後で取付けるまでなくさないよう保管してください。
2. 基板上的アドレス設定スイッチを回す。
 - 左側 (SW12) が 10 の位、右側 (SW11) が 1 の位を示します。
 - 工場出荷時は「00」です。
 - アドレス番号は 1 ~ 50 で設定してください。

メモ

- リモコンもアドレス設定が必要な場合があります。ご使用のリモコン付属の取扱説明書をお読みください。
- アドレスの設定変更時は必ず室外ユニットの電源を入れ直してください。
- アドレス設定を変更した場合、MA スマートリモコンから実施した機能設定の内容は工場出荷にリセットされます。

分流コントローラ分岐口 No. の設定

必ず元電源を切った状態で行ってください。



R2、WR2 シリーズの室外ユニットを使用している場合、分岐口 No. の設定が必要です。

1. コントロールボックスカバーをはずす。
 - 後で取付けるまでなくさないよう保管してください。
2. 基板上的分流コントローラ分岐口 No. 設定スイッチ (SW14) を回す。

分岐口 No. は外気処理ユニットが接続されている分流コントローラの分岐口の番号です。(0 ~ F の 16 進表示)

(例) 分岐口番号 “3” は、SW14 : “3”
分岐口番号 “10” は、SW14 : “A”
分岐口番号 “16” は、SW14 : “0”

 - 外気処理ユニットの冷媒配管と接続されている分流コントローラの接続口 No. と同一にします。
 - 工場出荷時は「0」です。

※ 外気処理ユニットは分岐口 1 つに対し 1 台のみ接続とし、1 分岐口に他の外気処理ユニットや室内ユニットを同時に接続しないでください。

機能切換

必要な機能設定を行ってください。

● スイッチの設定を変更するときは電源を切るか運転を停止にしてください。

※ SW4 は機種設定用スイッチのため触れないでください。(変更すると正しく動作しません)

SW4 の設定状態は本体の銘板に記載されています。

- 1 制御タイプ設定
- 2 メンテナンス表示設定
- 3 モニター出力設定 TB22③
- 4 遠方入力機能設定
- 5 停電自動復帰設定
- 6 マルチ換気モード設定
- 7 運転開始時 強制パワー給排気設定
- 8 緊急停止設定
- 9 属性設定 (マルチエアコン連動設定)
- 10 加湿準備運転・除霜運転等 排気用送風機 動作設定
- 11 寒冷地給気停止モード時 排気用送風機 動作設定
- 12 モニター出力設定 TM3/TB22②
- 13 加湿運転時 目標湿度設定
- 14 外部加湿入力設定
- 15 自動換気設定
- 16 自動換気時 エンタルピー制御設定
- 17 24時間換気設定時 停止動作設定
- 18 予熱時外気取入停止設定 (遅延運転設定)
- 19 風量設定 (風量多段階設定)
- 20 定風量制御設定
- 21 給気・排気用送風機 定風量設定
- 22 普通換気時 風量最大制御設定
- 23 ナイトパージ設定
- 24 ナイトパージ室内外温度差設定
- 25 ナイトパージOA (外気) 温度しきい値設定
- 26 24時間換気設定
- 27 給気・排気用送風機モニター出力設定
- 28 送風運転時 加湿機能設定
- 29 除湿運転時 吹出下限温度設定 (冷風防止制御)
- 30 加湿運転時 吹出上限温度設定 (温風防止制御)
- 31 吹出温度制御 サーモ設定
- 32 加湿能力設定
- 33 除湿能力設定
- 34 除湿運転時 目標湿度設定
(高顕熱冷房時 目標湿度設定)
- 35 除湿運転時 目標湿度 有効/無効設定
- 36 加湿運転時 サーモOFF外気温度設定
- 37 除湿運転時 サーモOFF外気温度設定
- 38 暖房運転時 外気温度補正
- 39 加熱セーブ加湿モード設定
- 40 暖房運転時 サーモOFF外気温度設定 (属性FU時)
- 41 CO₂センサー 接続設定
- 42 CO₂センサー グループ制御設定
- 43 CO₂センサー CO₂濃度補正
- 44 CO₂センサー CO₂濃度リモコン表示設定
- 45 CO₂センサー CO₂濃度リモコン表示補正
- 46 風量自動制御 目標CO₂濃度設定
- 47 風量自動制御 給排バランス設定
- 48 風量自動制御 給排バランス調整
- 49 風量自動制御 サーモ設定

機能設定 つづき

SW1, SW2, SW3 の設定

【SW1】

	OFF	ON	
1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	送風機 試運転
2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ダンパー 試運転
3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	給水電磁弁 試運転
4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	触れないでください
5	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2 メンテナンス表示設定
6	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	20 定風量制御設定
7	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4 遠方入力機能設定
8	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	18 予熱時外気取入停止設定 (遅延運転設定)
9	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	14 外部加湿入力設定
10	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	触れないでください

【SW2】

	OFF	ON	
1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	5 停電自動復帰設定
2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	12 モニター出力設定 TM3/TB22②
3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
5	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
6	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	6 マルチ換気モード設定 (給気用送風機)
7	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	6 マルチ換気モード設定 (排気用送風機)
8	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	8 緊急停止設定
9	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	触れないでください
10	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

【SW3】

	OFF	ON	
1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	9 属性設定 (マルチエアコン連動設定)
2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	13 加湿運転時 目標湿度設定
3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
5	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
6	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	34 除湿運転時 目標湿度設定 (高顕熱冷房時 目標湿度設定)
7	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	29 除湿運転時 吹出下限温度設定 (冷風防止制御)
8	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	30 加湿運転時 吹出上限温度設定 (温風防止制御)
9	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	35 除湿運転時 目標湿度 有効/無効設定
10	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	触れないでください

「**1** 制御タイプ設定」が「外気温度制御」の場合、または「FitマルチおよびマルチSシリーズ室外ユニットを接続」する場合は、SW3の下記番号の設定内容が異なります。

	OFF	ON	
5	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	40 暖房運転時 サーモOFF外気温度設定 (属性FU時)
6	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
9	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
			触れないでください

MA スマートリモコンからの機能選択

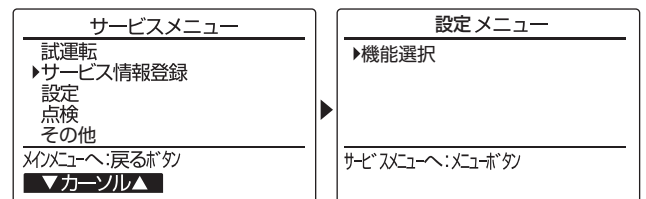
メインメニュー画面から「サービスメニュー」を選択します。
 サービスメニューを選択するとパスワード入力画面が表示されます。
 現在設定されているサービス用パスワード（数字 4 桁）を入力します。
 [F1] [F2] ボタンで桁を選択し、[F3] [F4] ボタンにて 0～9 の数字を設定します。
 4 桁のパスワードを入力後、**[決定]** ボタンを押します。
 詳細は MA スマートリモコンの据付工事説明書をご参照ください。
 ※ ME リモコンの機能選択は使用できません。



お願い

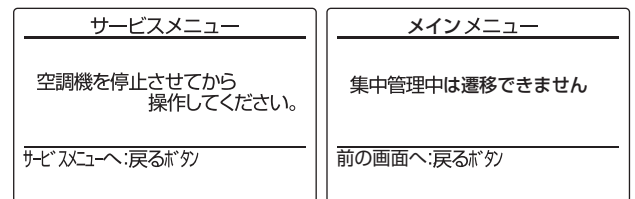
サービス用パスワードの初期値は「9999」です。管理者以外の方が設定変更しないよう、必要に応じてパスワードを変更してください。パスワードは必要な方が分かるよう適切に管理してください。

パスワードが一致すると、サービスメニューが表示されます。



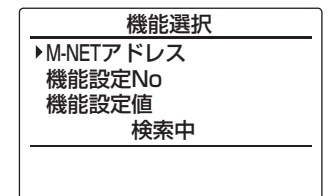
お知らせ

サービスメニューの項目によっては外気処理ユニットを停止させる必要があります。また、システムコントローラ等での操作禁止中は操作できません。

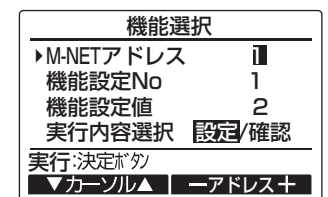


操作手順

① 「サービスメニュー」⇒「設定メニュー」から「機能選択」を選択すると自動的に現在リモコンが接続されている外気処理ユニットの検索を行います。（「検索中」が点滅します）

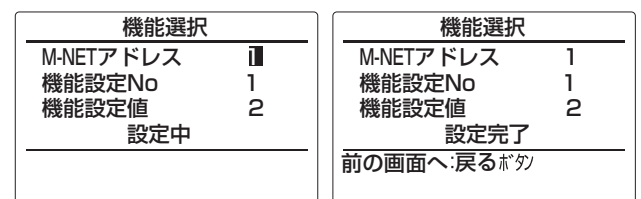


② 検索が終了すると現在リモコンが接続されている外気処理ユニットのグループ内で最小 M-NET アドレスを表示します。
 ここで設定する必要がなければ **[戻る]** ボタンを押して「サービスメニュー」に戻ります。



機能を変更する場合

③ 機能設定したい M-NET アドレス、機能設定 No.、機能設定値を [F1]～[F4] ボタンにて選択し、「実行内容選択」で「設定」を選択して、**[決定]** ボタンを押します。「設定中」が点滅表示され、正常に完了すると「設定完了」が表示されます。
 グループ内を全て同じ設定にする場合は M-NET アドレスで「一括」を選択してください。



お知らせ

「所定の機能設定 No. および機能設定値以外の番号」を選択した場合、設定不可画面表示になるか、または正常に動作しません。

機能設定 つづき

設定を確認する場合

④確認したい外気処理ユニットの M-NET アドレスと機能設定 No. を [F1] ~ [F4] ボタンにて選択し、「実行内容選択」で「確認」を選択して、[決定] ボタンを押します。「確認中」が点滅表示され、正常に完了すると設定されている機能設定値が表示されます。

機能選択	
M-NETアドレス	1
機能設定No	1
機能設定値	
確認中	

MA スマートリモコン 専用設定画面からの設定

以下の機能は MA スマートリモコンより専用画面にて容易に設定可能です。

- ・吹出温度制御設定
- ・換気設定
- ・風量設定

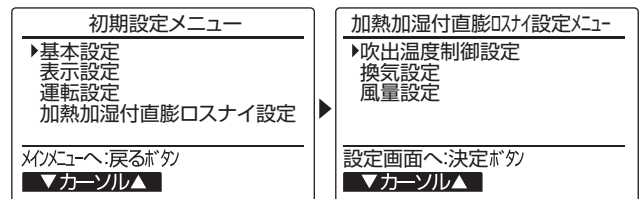
お知らせ

- リモコン設定画面と機能設定は後に設定された内容が優先されます。
- 機能設定リセット（機能設定 No.150）を行うと設定は工場出荷時の状態にリセットされます。

操作手順

メイン画面から、「メインメニュー」→「初期設定メニュー」→「加熱加湿付直膨ロスナイ設定」より、各種設定が可能です。

「加熱加湿付直膨ロスナイ設定」を選択すると、「加熱加湿付直膨ロスナイ設定メニュー」が表示されます。



お知らせ

初期設定メニューには管理者用パスワードの入力が必要です。

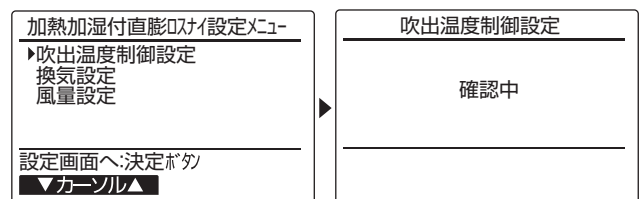
吹出温度制御設定

機能の詳細および制約事項等は、以下を参照してください。

- 29 除湿運転時 吹出下限温度設定（冷風防止制御）
- 30 加湿運転時 吹出上限温度設定（温風防止制御）

①吹出温度制御設定の選択

[F1] [F2] ボタンで「吹出温度制御設定」を選択し、[決定] ボタンを押します。（「確認中」が点滅します）

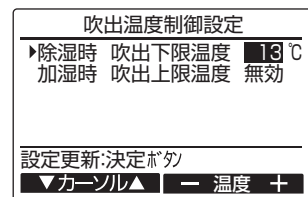


②吹出温度制御での温度設定

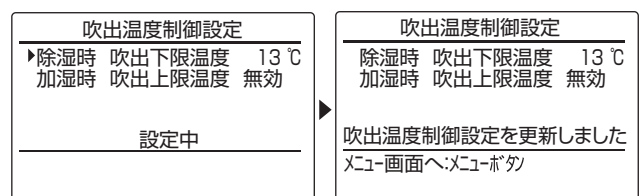
除湿運転時の吹出下限温度、および加湿運転時の吹出上限温度を設定します。

[F1] [F2] ボタンで除湿 / 加湿のうち変更したい項目を選択します。

[F3] [F4] ボタンで吹出温度の下限温度 / 上限温度を設定し、設定が完了したら [決定] ボタンを押します。（「設定中」が点滅します）



設定確定画面が表示されます。



画面移動方法

- メインメニュー画面へ戻る・・・[メニュー] ボタン
- 前の画面に戻る・・・[戻る] ボタン

換気設定

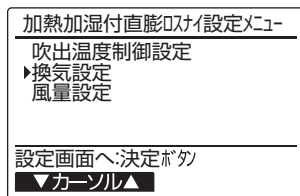
- ・ AE-200J を使用している場合、換気設定は使用できません。
ナイトパーズ、24 時間換気の設定は AE-200J で行ってください。
- ・ 機能の詳細および制約事項等は、以下を参照してください。

26 24 時間換気設定

23 ナイトパーズ設定

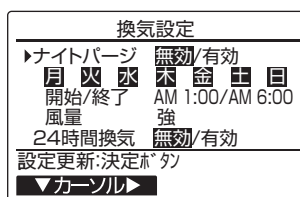
①換気設定の選択

[F1] [F2] ボタンで「換気設定」を選択し、
[決定] ボタンを押します。



②ナイトパーズ機能の選択

[F1] ボタンで「ナイトパーズ」の項目にカーソルを合わせ、
[F2] ボタンで「無効/有効」を選択します。
※白黒反転している内容が選択されています



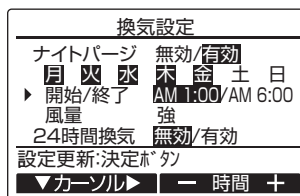
③ナイトパーズ機能を有効にする曜日の選択

[F1] ボタンで「月～日」の項目にカーソルを合わせ、
[F2] ボタンで設定する曜日を選択(点滅表示)します。
[F4] ボタンで選択した曜日のナイトパーズ「無効/有効」を切り換えます。
※白黒反転している曜日にナイトパーズが有効になります。



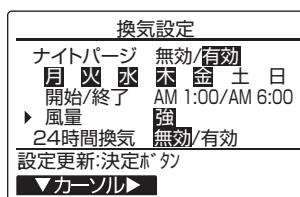
④ナイトパーズ開始時刻/終了時刻の設定

[F1] ボタンで「開始/終了」の項目にカーソルを合わせ、
[F2] ボタンで「開始時刻/終了時刻」を選択します。
[F3] [F4] ボタンで時刻を変更します。
(10分単位で変更可能)



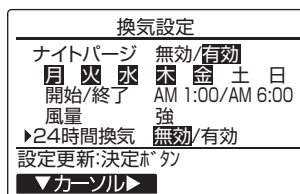
⑤ナイトパーズ風量の設定

[F1] ボタンで「風量」の項目にカーソルを合わせ、
[F2] ボタンで風量を選択します。
※選択可能な風量は「強/弱/微弱」です。
「自動」は選択できません。

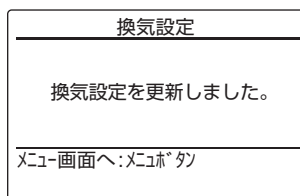


⑥24 時間換気設定

[F1] ボタンで「24 時間換気」の項目にカーソルを合わせ、
[F2] ボタンで「無効/有効」を選択します。



それぞれの設定が完了したら、[決定] ボタンを押して設定を更新します。



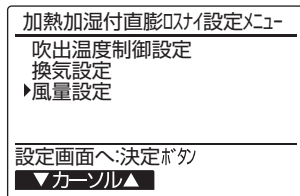
機能設定 つづき

風量設定（風量多段階設定）

機能の詳細および制約事項等は、「19 風量設定（風量多段階設定）」を参照してください。

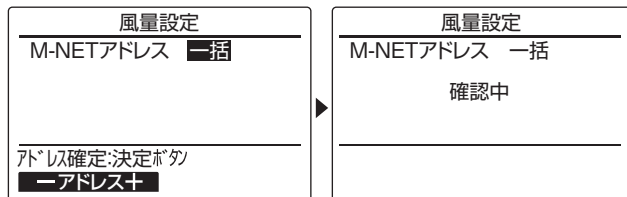
①風量設定の選択

[F1] [F2] ボタンで「風量設定」を選択し、
[決定] ボタンを押します。



② M-NET アドレスの選択

設定する外気処理ユニットの M-NET アドレスを選択し、[決定] ボタンを押します。（約 30 秒間、「確認中」が点滅します）



- ・一括：グループ内の外気処理ユニットを全て同じ設定値に変更します。
- ・1～127：選択した M-NET アドレスの外気処理ユニットのみ設定値を変更します。

お知らせ

M-NET アドレスは [F1] ボタンを押すたびに設定値が「- 1」され、「1」の次に「一括」が表示されます。
また [F2] ボタンを押すたびに設定値が「+ 1」され、「127」の次に「一括」が表示されます。

③風量の選択

[F1] [F2] ボタンで変更する風量を選択し、
[決定] ボタンを押します。

風量設定		
アドレス	一括	給気 / 排気
▶微弱		44 % / 44 %
弱		72 % / 72 %
強		100 % / 100 %

風量選択:決定ボタン
▼カーソル▲

④風量設定

選択した風量の出力を設定します。給気 / 排気ともに 7% 刻みで選択可能です。
[F1] [F2] ボタンで給気 / 排気を選択します。
[F3] [F4] ボタンで風量の出力を選択します。
ボタン長押しで調整スピードが速くなります。

風量設定		
アドレス	一括	給気 / 排気
▶微弱		44% / 44 %
弱		72 % / 72 %
強		100 % / 100 %

設定更新:決定ボタン
◀カーソル▶ - 調整 +

お知らせ

- 設定範囲は最大で 30%～100% となります。
- 低い風量の出力を下回る設定、高い風量の出力を上回る設定はできません。
例：上記の表示画面で「弱」の設定範囲は 44%（微弱）～100%（強）となります。

設定が完了したら、[決定] ボタンを押して設定を更新します。（「設定中」が点滅します）

風量設定		
設定中		
▶微弱		44 % / 44 %
弱		72 % / 72 %
強		100 % / 100 %

画面移動方法

- 他の風量を変更する・・・[戻る] ボタン
- メインメニュー画面へ戻る・・・[メニュー] ボタン

機能を変更した場合は、設定内容を各表のチェック欄に○印などで記入して確認してください。

表中の「個別設定」は同じグループ内に外気処理ユニットが複数台ある場合、グループ内の外気処理ユニットについて、個別に設定値を変更する「個別設定」に対応しているかを示します。

システム内のアドレス設定方法が手動アドレス設定の場合のみ適用されます。室内自動アドレス設定の場合は、本内容に関わらず必ず「一括設定」を行ってください。

○：「個別設定」に対応しています。機能選択の「M-NET アドレス」で設定値を変更したい外気処理ユニットのアドレスを選択します。

－：「個別設定」に対応していません。グループ内の外気処理ユニットすべてを同じ設定値にしてください。機能選択の「M-NET アドレス」で「一括」を選択します。

機能設定 No.	個別設定	機能名称	機能設定値によるモード、動作 ※空欄の機能設定値は、設定できません。															工場出荷時					
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14		15				
1	－	エアフィルターメンテナンス表示設定	機能切換 SW 優先	非表示	表示																0		
2	－	ロスナイエレメントメンテナンス表示設定	機能切換 SW 優先	非表示	表示																	0	
3	－	加湿エレメントメンテナンス表示設定	機能切換 SW 優先	非表示	表示																	0	
10	－	停電自動復帰設定	機能切換 SW 優先	無効	有効																	0	
11	○	運転開始時強制パワー給排気設定	無効	有効																		0	
13	○	給気用送風機マルチ換気モード設定	機能切換 SW 優先	無効	有効																	0	
14	○	排気用送風機マルチ換気モード設定	機能切換 SW 優先	無効	有効																	0	
15	○	加湿準備運転・除霜運転等排気用送風機動作設定	運転	停止																		0	
16	○	寒冷地給気停止モード時排気用送風機動作設定	運転	微弱風量																		0	
20	－	24時間換気設定	無効	有効																		0	
21	－	24時間換気設定時停止動作設定	停止	24時間換気																		1	
22	－	ナイトパーズ設定	無効	有効／微弱風量	有効／弱風量	有効／強風量																0	
23	－	ナイトパーズ室内外温度差設定	0℃	1℃	2℃	3℃	4℃	5℃	6℃	7℃												5	
24	－	ナイトパーズ外気温度しきい値設定	15℃	16℃	17℃	18℃	19℃	20℃	21℃	22℃	23℃	24℃	25℃	26℃	27℃	28℃	29℃	30℃					13
30	○	風量設定(風量多段階設定)給気用送風機微弱風量設定	100%	93%	86%	79%	72%	65%	58%	51%	44%	37%	30%									8	
31	○	風量設定(風量多段階設定)給気用送風機弱風量設定	100%	93%	86%	79%	72%	65%	58%	51%	44%	37%	30%									4	
32	○	風量設定(風量多段階設定)給気用送風機強風量設定	100%	93%	86%	79%	72%	65%	58%	51%	44%	37%	30%									0	
36	○	風量設定(風量多段階設定)排気用送風機微弱風量設定	100%	93%	86%	79%	72%	65%	58%	51%	44%	37%	30%									8	
37	○	風量設定(風量多段階設定)排気用送風機弱風量設定	100%	93%	86%	79%	72%	65%	58%	51%	44%	37%	30%									4	
38	○	風量設定(風量多段階設定)排気用送風機強風量設定	100%	93%	86%	79%	72%	65%	58%	51%	44%	37%	30%									0	
42	○	定風量制御設定	機能切換 SW 優先	無効	有効																	0	
43	○	給気用送風機定風量設定	強ノッチ 定格風量+10%	強ノッチ 定格風量	強ノッチ 定格風量-10%	強ノッチ 定格風量-20%	強ノッチ 定格風量-30%															1	
44	○	排気用送風機定風量設定	強ノッチ 定格風量+10%	強ノッチ 定格風量	強ノッチ 定格風量-10%	強ノッチ 定格風量-20%	強ノッチ 定格風量-30%															1	
50	○	普通換気時風量最大制御設定	無効	有効																		0	
51	○	自動換気時エンタルピー制御設定	無効	有効																		1	
52	○	自動換気時室内外温度差設定	0℃	1℃	2℃	3℃	4℃	5℃	6℃	7℃												4	
53	○	自動換気時外気温度下限値設定	10℃	11℃	12℃	13℃	14℃	15℃	16℃	17℃	18℃	19℃	20℃	21℃	22℃	23℃	24℃	25℃				4	
54	○	自動換気時還気温度下限値設定	15℃	16℃	17℃	18℃	19℃	20℃	21℃	22℃	23℃	24℃	25℃	26℃	27℃	28℃	29℃	30℃				9	
56	○	外部加湿入力設定	機能切換 SW 優先	無効	有効																	0	
57	－	緊急停止設定	機能切換 SW 優先	通常停止	緊急停止																	0	
60	○	モニター出力設定 TM3	機能切換 SW 優先	運転モニター	排気用送風機モニター	給気用送風機モニター	普通換気モニター	異常モニター	加湿異常モニター	給水電磁弁モニター	サーモ ONモニター	除湿運転モニター	加湿運転モニター									0	

機能設定 つづき

機能設定 No.	個別設定	機能名称	機能設定値によるモード、動作 ※空欄の機能設定値は、設定できません。															工場出荷時		
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14		15	
61	○	モニター出力設定 TB22 ②	機能切換 SW 優先	異常モニター	加湿異常モニター	普通換気モニター														0
62	○	モニター出力設定 TB22 ③	給気用送風機モニター	サーモ ON モニター																0
63	○	給気用送風機モニター出力設定	通常	弱・強風量モニター	強風量モニター															0
64	○	排気用送風機モニター出力設定	通常	弱・強風量モニター	強風量モニター															0
70	○	CO ₂ センサー接続設定	接続なし	接続あり																0
71	-	CO ₂ センサーグループ制御設定	親機連動制御	個別制御																0
72	○	CO ₂ センサー CO ₂ 濃度補正	-250ppm	-200ppm	-150ppm	-100ppm	50ppm	補正なし	+50ppm	+100ppm	+150ppm	+200ppm	+250ppm							5
73	-	CO ₂ 濃度リモコン表示設定	非表示	表示																0
74	-	CO ₂ 濃度リモコン表示補正	-500ppm	-400ppm	-300ppm	-200ppm	-100ppm	補正なし	+100ppm	+200ppm	+300ppm	+400ppm	+500ppm							5
75	○	風量自動制御目標 CO ₂ 濃度設定	標準 (1,000ppm)	高 (1,400ppm)	低 (800ppm)															0
76	○	風量自動制御給排バランス設定	無効	給気用送風機	排気用送風機															0
77	○	風量自動制御給排バランス調整	無効	7% ダウン	14% ダウン	21% ダウン	28% ダウン	35% ダウン	42% ダウン	49% ダウン	56% ダウン	63% ダウン	70% ダウン							0
78	-	風量自動制御サーモ設定	サーモ OFF 禁止	サーモ OFF 許可																0
101	-	制御タイプ設定	除湿優先制御	外気温度制御																0
102	-	送風運転時加湿機能設定	無効	有効																0
103	○	加湿運転時目標湿度設定	機能切換 SW 優先	無効	RH 40%	RH 45%	RH 50%	AH 6.5g/kg (DA) 22℃ 40% 相当	AH 7.3g/kg (DA) 22℃ 45% 相当	AH 8.1g/kg (DA) 22℃ 50% 相当										0
104	○	除湿運転時目標湿度設定 (高顕熱冷房時目標湿度設定)	機能切換 SW 優先	AH 10.4g/kg (DA) 26℃ 50% 相当	AH 11.5g/kg (DA) 26℃ 55% 相当	AH 12.5g/kg (DA) 26℃ 60% 相当	AH 13.6g/kg (DA) 26℃ 65% 相当													0
105	○	除湿運転時吹出下限温度設定 (冷風防止制御)	機能切換 SW 優先	無効	11℃	12℃	13℃	14℃	15℃	16℃	17℃	18℃								0
106	○	加湿運転時吹出上限温度設定 (温風防止制御)	機能切換 SW 優先	無効	26℃	27℃	28℃	29℃	30℃											0
107	○	吹出温度制御サーモ設定	吹出温度優先 (サーモ OFF 許可)	除湿優先 (サーモ OFF 禁止)	除湿：除湿優先 加湿：吹出温度優先	除湿：吹出温度優先 加湿：加湿優先														3
115	○	加熱セーブ加湿モード設定	無効	有効																0
116	○	暖房運転時外気温度補正	外気温度 + 11℃	外気温度 + 7℃																0
120	○	加湿能力設定	スマート加湿モード	マイルド加湿モード																0
121	○	除湿能力設定	スマート除湿モード	マイルド除湿モード																0
122	○	加湿運転時サーモ OFF 外気温度設定	17℃	18℃	19℃	20℃	21℃													4
123	○	除湿運転時サーモ OFF 外気温度設定	19℃	20℃	21℃	22℃	23℃	24℃	25℃	26℃	27℃	28℃	29℃							6
124	○	除湿運転時目標湿度 有効/無効設定	機能切換 SW 優先	無効	有効															0
150	○	機能設定リセット	通常	機能設定リセット																0

1 制御タイプ設定

外気処理ユニットの運転パターンを以下の2つから選択することができます。

工場出荷時は「除加湿優先制御」に設定されています。

※ Fit マルチおよびマルチ S シリーズ室外ユニットを接続する場合は、本機能の設定によらず「外気温度制御」で動作します。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			タイプ	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
—	—	101	0		除加湿優先制御	室内へ吹出す空気に対して、加湿、除湿を優先した運転を行います。 (工場出荷時)
			1		外気温度制御	外気温度と設定温度を比較し、サーモ ON/OFF する運転を行います。

※設定切換は、MA スマートリモコン使用時の場合に限り行えます。

2 メンテナンス表示設定

メンテナンス表示を行わない場合に設定してください。

工場出荷時は「表示する」に設定されています。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			動作	
OFF	ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値		チェック
SW1	5 <input type="checkbox"/>		1, 2, 3	2		リモコンへエアフィルター、ロスナイエレメント、加湿エレメントのメンテナンスサインを表示する (工場出荷時)
	5 <input checked="" type="checkbox"/>			1		リモコンへのメンテナンスサインを表示しない

※ MA スマートリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」(機能切換スイッチ優先)になっています。

※ 機能設定 No.1: エアフィルター メンテナンス表示設定 (給気用送風機 運転積算時間 3,000 時間)

No.2: ロスナイエレメント メンテナンス表示設定 (ロスナイ換気 運転積算時 6,000 時間)

No.3: 加湿エレメント メンテナンス表示設定 (給水電磁弁 運転積算時間 1,250 時間)

を示します。

※「機能設定 No.1: エアフィルター メンテナンス表示設定」は、MA スマートリモコン、ME リモコンのみ表示を切り換えることができます。

※「ロスナイエレメント」および「加湿エレメント」のメンテナンスサインは、MA スマートリモコンのみ表示することができます。

3 モニター出力設定 TB22 ③

システム部材の M 制御用遠方表示キット (PAC-YU80HK) を接続する場合、端子台 (TB22 ③) から取り出す信号を切り換えることができます。外気処理ユニットの状態に応じて、端子台のリレー接点が閉 (ショート) となります。

工場出荷時は「給気用送風機モニター」に設定されています。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			モード
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック	
—	—	62	0		給気用送風機モニター (工場出荷時)
			1		サーモ ON モニター

※設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

機能設定 つづき

4 遠方入力機能設定

システム部材の遠方表示用アダプター (PAC-SA88HA) を用いることにより、遠方操作ができます。工場出荷時は「OFF」に設定されています。

※ MA スマートリモコンからの機能切替はできません。

機能切替スイッチ			MA スマートリモコン		動作
OFF	ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	
SW1	7	<input type="checkbox"/>		-	CN51 ①-② 運転/停止パルス入力 CN52 ①-⑤ デマンド入力 (工場出荷時)
	7	<input checked="" type="checkbox"/>			CN51 ①-② 運転パルス入力 CN52 ①-⑤ 停止パルス入力

5 停電自動復帰設定

停電後電源が復旧したとき、停電前の運転状態に自動復帰します。

工場出荷時は「無効」に設定されています。

※ マルチエアコンと連動する場合は設定できません。

機能切替スイッチ			MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
SW2	1	<input type="checkbox"/>	10	1		無効	停電復旧時、外気処理ユニットは停止 (工場出荷時)
	1	<input checked="" type="checkbox"/>		2		有効	停電復旧時、外気処理ユニットは停止前の運転状態に復帰

※ MA スマートリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」(機能切替スイッチ優先)になっています。

6 マルチ換気モード設定

使用環境や設置場所に応じた給排気バランスを選択させる場合に設定します。

リモコンから強風量にした場合、本設定に従い給気および排気の送風機が運転します。

工場出荷時は給気側・排気側共に強風量で運転するように設定されています。

機能切替スイッチ			MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
SW2	5	<input type="checkbox"/>	13, 14	No.13=1		パワー給排気モード	リモコンの風量操作に従い、給気および排気用送風機が運転します。(工場出荷時)
	6	<input type="checkbox"/>		No.14=1			
	5	<input checked="" type="checkbox"/>		No.13=1		パワー給気モード	排気用送風機は弱風量で運転します。 給気：強風量/排気：弱風量
	6	<input type="checkbox"/>		No.14=2			
5	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	No.13=2		パワー排気モード	給気用送風機は弱風量で運転します。 給気：弱風量/排気：強風量	
6	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	No.14=1				
5	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	No.13=2		省エネ換気モード	給気および排気の送風機はともに弱風量で運転します。 給気：弱風量/排気：弱風量	
6	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	No.14=2				

※ MA スマートリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」(機能切替スイッチ優先)になっています。

※ 以下のいずれかの場合は本機能は無効となります。

- ・ 「20 定風量制御設定」を「有効」に設定している場合
- ・ 別売のCO₂センサーを接続して、風量操作で「自動」を選択した場合

7 運転開始時 強制パワー給排気設定

運転開始時、30分間は風量を強固定で運転させる場合に設定します。30分後はリモコンからの風量操作に切り換わります。夜間停止時に室内の空気が汚れ、運転開始時急速換気したい場合に使用します。工場出荷時は、リモコン設定した風量で運転されるよう設定されています。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
—	—	11	0		無効	リモコンで設定した風量で運転します。 (工場出荷時)
			1		有効	運転開始から30分間はリモコンの設定に関係なく強制的に給気、排気用送風機共に強風量で運転します。

※ 設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

※ 加湿運転時、運転開始から5分間は加湿準備運転のため排気用送風機のみ運転します。

※ 以下のいずれかの場合は本機能は無効となります。

・別売のCO₂センサーを接続して、風量操作で「自動」を選択した場合

・風量切換入力(CN16)を使用して風量操作をしている場合

※ 「6 マルチ換気モード設定」は本動作よりも優先します。

8 緊急停止設定

遠方入力(CN32)で製品を停止させた場合、加湿エレメント乾燥運転、ナイトパーズ、給水電磁弁凍結防止を行うかどうかを設定します。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			モード	動作	
OFF	ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値			チェック
SW2	7	<input checked="" type="checkbox"/>	57	1		通常停止	遠方入力で製品を停止させた場合、MA スマートリモコン等で停止させた場合と同様、製品停止後に加湿エレメント乾燥運転、ナイトパーズ、給水電磁弁凍結防止を行います。(工場出荷時)
	7	<input type="checkbox"/>		2		緊急停止	遠方入力で製品を停止させた場合、加湿エレメント乾燥運転、ナイトパーズ、給水電磁弁凍結防止は行いません。

※ MA スマートリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」(機能切換スイッチ優先)になっています。

※ 緊急停止の場合、停止中の送風機動作(加湿エレメント乾燥運転、ナイトパーズ、電磁弁凍結防止)は実施しません。

※ 緊急停止の解除後は、一度製品の運転/停止操作を行う等で加湿エレメント乾燥運転を行ってください。乾燥運転を行わないと残留水が腐敗し、異臭が発生する場合があります。異臭が発生した加湿エレメントは交換が必要となります。

※ 遠方入力の使用方法、制約事項は、「電気工事 7 遠方入力を使用する場合」を参照してください。

機能設定 つづき

9 属性設定（マルチエアコン連動設定）

マルチエアコンと連動した運転をするか、リモコン操作による運転をするかを設定します。
工場出荷時は手元リモコンを接続するよう設定されています。

※ システム通電後に本機能の設定変更を行った場合、室外ユニットの電源を入れ直してください。

※ 本機能が「属性 FU」の場合、以下の運転／停止操作は使用できません。

- ① 運転／停止パルス（CN51）
- ② 運転パルス／停止パルス（CN51）
- ③ 遠方入力（CN32）
- ④ HA（CN41）

※ MA スマートリモコンからの機能切替はできません。

機能切替スイッチ			MA スマートリモコン		設定内容	システム
OFF	ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値		
SW3	1	<input type="checkbox"/>	-	-	属性 IC	手元リモコン、システムコントローラーを接続する (工場出荷時) ※マルチエアコンと連動運転できない
	1	<input checked="" type="checkbox"/>			属性 FU	マルチエアコンと連動運転する ※手元リモコン、システムコントローラーは接続できない

10 加湿準備運転・除霜運転等 排気用送風機 動作設定

加湿準備運転や暖房運転中の除霜時、冷媒回収時等には給気用送風機が停止しますが、そのときの排気用送風機の動作を設定します。

工場出荷時は「運転」に設定されています。

機能切替スイッチ			MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
—	—	—	15	0	—	運転	排気用送風機はリモコンの設定風量で運転します。 給気：停止／排気：運転（工場出荷時）
				1		停止	排気用送風機が停止します。 給気：停止／排気：停止

※ 設定切替は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

11 寒冷地給気停止モード時 排気用送風機 動作設定

外気温度が低温のときは給気用送風機が間欠運転（寒冷地運転）しますが、そのときの排気用送風機の動作を設定します。

工場出荷時はリモコン設定した風量で運転されるよう設定されています。

機能切替スイッチ			MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
—	—	—	16	0	—	運転	排気用送風機はリモコンの設定風量で運転します。 給気：停止／排気：運転（工場出荷時）
				1		微弱風量	排気用送風機は微弱風量で運転します。 給気：停止／排気：微弱風量

※ 設定切替は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

12 モニター出力設定 TM3 / TB22 ②

端子台 TM3 およびシステム部材のM制御遠方表示キット (PAC-YU80HK) の端子台 TB22 ② から取り出す信号を切り換えることができます。外気処理ユニットの状態に応じて、端子台のリレー接点が閉 (ショート) となります。

機能切換スイッチ			TM3			TB22 ②						
			MA スマートリモコン			出力信号	MA スマートリモコン			出力信号		
OFF	ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック		機能設定 No.	機能設定値	チェック			
SW2	2	<input type="checkbox"/>		60	1		61	1		異常モニター (工場出荷時)		
	3	<input type="checkbox"/>									2	排気用送風機 モニター
	4	<input type="checkbox"/>									3	給気用送風機 モニター
	2	<input type="checkbox"/>									4	普通換気モニター
	3	<input type="checkbox"/>									5	異常モニター
	4	<input type="checkbox"/>									6	加湿異常モニター
	2	<input type="checkbox"/>									7	給水電磁弁 モニター
	3	<input type="checkbox"/>									8	サーモ ON モニター
	4	<input type="checkbox"/>									9	除湿運転モニター
	2	<input type="checkbox"/>									10	加湿運転モニター
—	—					2			加湿異常 モニター			

- ※ MAスマートリモコンの機能設定値は機能設定 No60・61 とともに、工場出荷時「0」(機能切換スイッチ優先) になっています。
- ※ 「排気用送風機モニター」または「給気用送風機モニター」に設定した場合、MA スマートリモコンご使用時の場合のみ、送風機の動作風量に従って信号を取り出すことができます。「27 給気・排気用送風機モニター出力設定」を参照して設定してください。
- ※ 「異常モニター」に設定した場合、機能切換スイッチによる試運転時の異常 (0900) を除くすべての異常でリレー接点が閉 (ショート) となります。
- ※ 「加湿異常モニター」に設定した場合は、加湿異常 (2600) または水検知センサー外れ異常 (2601)、ドレンアップメカ機種設定異常 (2602)、給排水異常 (2610) の場合のみリレー接点が閉 (ショート) となります。
- ※ 電動ダンパー、補助送風機を設置する場合、設置する風路に合わせて「給気用送風機モニター」または「排気用送風機モニター」に設定してください。
- ※ 同一グループ内に複数の製品を接続する場合でも、出力信号は製品ごとに取り出してください。

機能設定 つづき

13 加湿運転時 目標湿度設定

加湿運転時の室内空気目標湿度を設定します。「**1** 制御タイプ設定」によって制御が異なります。工場出荷時は「RH 約 40%」に設定されています。

- 除加湿優先制御：スマート加湿の目標湿度となります。還気湿度が目標湿度に近づくよう加湿能力を制御します。
- 外気温度制御：還気湿度が目標湿度を越えた場合、加湿運転を停止することで過加湿を防止します。

機能切換スイッチ			MA スマートリモコン			動作		
OFF	ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック			
SW3	2	<input type="checkbox"/>	103	2	<input type="checkbox"/>	還気相対湿度 RH 約 40% (工場出荷時)		
	3	<input type="checkbox"/>						
	4	<input type="checkbox"/>						
	2	<input type="checkbox"/>						
	3	<input type="checkbox"/>					3	還気相対湿度 RH 約 45%
	4	<input type="checkbox"/>						
	2	<input type="checkbox"/>					4	還気相対湿度 RH 約 50%
	3	<input type="checkbox"/>						
4	<input type="checkbox"/>							
2	<input type="checkbox"/>	5	還気絶対湿度 AH 約 6.5g/kg(DA) (22°C 40% 相当)					
3	<input type="checkbox"/>							
4	<input type="checkbox"/>	6	還気絶対湿度 AH 約 7.3g/kg(DA) (22°C 45% 相当)					
2	<input type="checkbox"/>							
3	<input type="checkbox"/>	7	還気絶対湿度 AH 約 8.1g/kg(DA) (22°C 50% 相当)					
4	<input type="checkbox"/>							
2	<input type="checkbox"/>	1	還気湿度によらず加湿を継続運転します。 (目標湿度設定無効)					
3	<input type="checkbox"/>							
4	<input type="checkbox"/>							

- ※ MA スマートリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」（機能切換スイッチ優先）になっています。
- ※ 手元リモコン、システムコントローラから加湿モード操作が可能な場合、加湿モード操作を「自動」に設定したときのみ目標湿度を用いた制御を行います。過加湿を防止したい場合、必ず加湿モード操作は「自動」に設定してください。

14 外部加湿入力設定

市販のヒューミディスタットなどを遠方発停用アダプター (PAC-SE55RA) を使用して外部加湿入力 (CN25) に接続し、外部からの信号で加湿制御を行う場合、設定します。

工場出荷時は「無効」に設定されています。

機能切換スイッチ			MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
SW1	9	<input type="checkbox"/>	56	1	<input type="checkbox"/>	無効	外部加湿入力を使用しません (工場出荷時)
	9	<input type="checkbox"/>					

- ※ MA スマートリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」（機能切換スイッチ優先）になっています。
- ※ 手元リモコン、システムコントローラから加湿モード操作が可能な場合、加湿モード操作を「自動」に設定したときのみ外部加湿入力による加湿制御が可能となります。外部加湿入力を使用して過加湿を防止したい場合、必ず加湿モード操作は「自動」に設定してください。
- ※ 「13 加湿運転時 目標湿度設定」との併用は可能ですが、計測場所や室内空気状態により検知のズレが発生します。
- ※ 外部加湿入力のみで加湿制御を行いたい場合は「13 加湿運転時 目標湿度設定」で「目標湿度設定無効」に設定してください。
- ※ 1つの外部信号で複数の外気処理ユニットを一括制御することはできません。外気処理ユニットごとに外部信号を入力してください。また1つの外部信号を複数の外気処理ユニットで共用することはできません。

15 自動換気設定

換気モード操作で「自動換気」を選択した場合、外気処理ユニット本体内部に組み込まれた外気温度センサーと還気温度センサーの測定値により、最適な換気モードに切り換えます。

このときの判定条件を用途や目的に合わせて変更することができます。

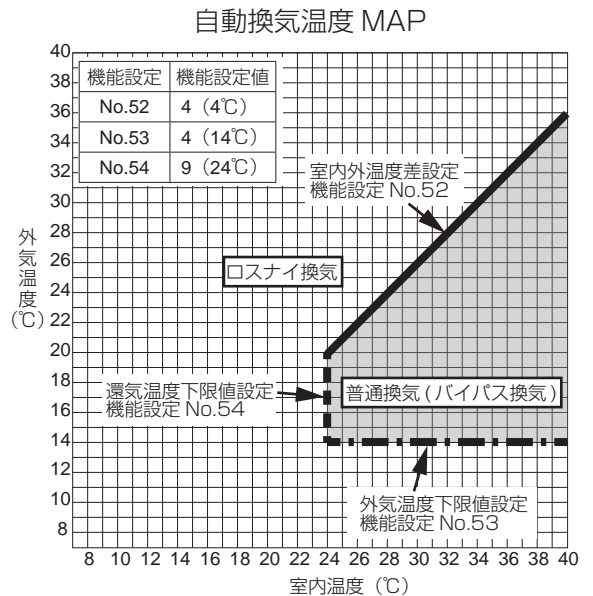
例：中間期にも普通換気（バイパス換気）で積極的な外気冷房を実施したい場合、「外気温度下限値」と「室内温度下限値」を工場出荷時よりも低く設定します。

メモ

空調機と連動運転している場合で、空調機が暖房または送風のときは、本設定によらずロスナイ換気固定となります。

ご使用方法

- MA スマートリモコンをご使用の場合のみ設定を変更することができます。
- 以下の条件をすべて満たしたとき、普通換気（バイパス換気）に切り換わります。
 - a. (還気温度 - 外気温度) ≥ 室内外温度差 (工場出荷時：4℃)
 - b. 外気温度 ≥ 外気温度下限値 (工場出荷時：14℃)
 - c. 還気温度 ≥ 還気温度下限値 (工場出荷時：24℃)
- 自動換気温度 MAP は工場出荷時を示しています。



※下記以外の値に設定することはできません。

■ 室内外温度差設定

MA スマートリモコン			動作
機能設定 No.	機能設定値	チェック	
52	0		0℃
	1		1℃
	2		2℃
	3		3℃
	4		4℃ (工場出荷時)
	5		5℃
	6		6℃
	7		7℃

■ 外気温度下限値設定

MA スマートリモコン			動作
機能設定 No.	機能設定値	チェック	
53	0		10℃
	1		11℃
	2		12℃
	3		13℃
	4		14℃ (工場出荷時)
	5		15℃
	6		16℃
	7		17℃
	8		18℃
	9		19℃
	10		20℃
	11		21℃
	12		22℃
	13		23℃
	14		24℃
	15		25℃

■ 還気温度下限値設定

MA スマートリモコン			動作
機能設定 No.	機能設定値	チェック	
54	0		15℃
	1		16℃
	2		17℃
	3		18℃
	4		19℃
	5		20℃
	6		21℃
	7		22℃
	8		23℃
	9		24℃ (工場出荷時)
	10		25℃
	11		26℃
	12		27℃
	13		28℃
	14		29℃
	15		30℃

機能設定 つづき

16 自動換気時 エンタルピー制御設定

換気モード操作で「自動換気」を選択した場合、室内エンタルピーと室外エンタルピーの比較を行い、最適な換気モードに切り換えます。

梅雨時などに生じる低温高湿（高エンタルピー）の外気は、通常ならば外気冷房として普通換気で取り込みますが、エンタルピー制御は室内以上に室外のエンタルピーが高い場合、低温高湿の外気をロスナイ換気を取り込むことによって湿度を下げ、冷房効果を高めることができます。

本機能は、除湿運転または送風運転のときに有効となります。

工場出荷時は「有効」に設定されています。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
—	OFF	51	0		無効	エンタルピー制御無効 自動換気時は、15 の設定によってロスナイ換気 / 普通換気を切り換えます。
	ON		1		有効	エンタルピー制御有効（工場出荷時） 室内以上に室外のエンタルピーが高い場合はロスナイ換気を行う 室外エンタルピー ≥ 室内エンタルピー：ロスナイ換気 室外エンタルピー < 室内エンタルピー：15 の設定によってロスナイ換気 / 普通換気を切り換えます。

※設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

17 24 時間換気設定時 停止動作設定

MA スマートリモコンを接続して、「26 24 時間換気設定」を「有効」にした場合のみ使用することができます。24 時間換気に対応していないリモコン（システムリモコン PAC-SF50AT2 等）から停止操作を行った場合でも、24 時間換気を行うことができます。

工場出荷時は「24 時間換気」に設定されています。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
—	OFF	21	0		停止	外気処理ユニットは停止します
	ON		1		24 時間換気	外気処理ユニットは 24 時間換気を行います（工場出荷時）

※設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

18 予熱時外気取入停止設定（遅延運転設定）

マルチエアコンと連動する場合（属性 FU）のみ使用することができます。

マルチエアコンが「暖房」または「冷房」で運転を開始してから 30 分後に外気処理ユニットの運転を開始することで、マルチエアコンの温調効果を高めます。

工場出荷時は「遅延なし」に設定されています。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン		動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	
SW1	8 <input type="checkbox"/>	—	—	遅延なし（工場出荷時）
	8 <input checked="" type="checkbox"/>			遅延運転あり 30 分

※ マルチエアコンが「暖房」または「冷房」で運転した場合のみ有効です。「送風」で運転した場合は即座に運転します。

※ 製品が停止してから 2 時間以内にマルチエアコンが運転した場合、即座に運転します。

19 風量設定（風量多段階設定）

給気・排気の換気風量を居室空間に合わせて細かく設定できるので、外気処理ユニットを最適な換気風量で運転させることができます。空調機が温調した空気を必要以上に換気しないため空調機の負荷も低減します。

微弱風量、弱風量、強風量のそれぞれについて、11段階から選択可能です。

11段階は規定風量比*30～100%の間を7%で刻んだ値です。

*規定風量比：強風量で運転したときの定格風量を100%とした比率

対象送風機	リモコン風量選択	MA スマートリモコン			規定風量比	対象送風機	リモコン風量選択	MA スマートリモコン			規定風量比
		機能設定 No.	機能設定値	チェック				機能設定 No.	機能設定値	チェック	
給気用送風機	微弱	30	0		100%	排気用送風機	微弱	36	0		100%
			1		93%				1		93%
			2		86%				2		86%
			3		79%				3		79%
			4		72%				4		72%
			5		65%				5		65%
			6		58%				6		58%
			7		51%				7		51%
			8		44% (工場出荷時)				8		44% (工場出荷時)
			9		37%				9		37%
			10		30%				10		30%
給気用送風機	弱	31	0		100%	排気用送風機	弱	37	0		100%
			1		93%				1		93%
			2		86%				2		86%
			3		79%				3		79%
			4		72% (工場出荷時)				4		72% (工場出荷時)
			5		65%				5		65%
			6		58%				6		58%
			7		51%				7		51%
			8		44%				8		44%
			9		37%				9		37%
			10		30%				10		30%
給気用送風機	強	32	0		100% (工場出荷時)	排気用送風機	強	38	0		100% (工場出荷時)
			1		93%				1		93%
			2		86%				2		86%
			3		79%				3		79%
			4		72%				4		72%
			5		65%				5		65%
			6		58%				6		58%
			7		51%				7		51%
			8		44%				8		44%
			9		37%				9		37%
			10		30%				10		30%

※ 給気・排気の室内側・室外側各々の圧力差が大きい場合などでは、設定風量にならないことがあります。

※ 給気用送風機および排気用送風機の選択範囲は「強風量 ≥ 弱風量 ≥ 微弱風量」です。

【例】「機能設定 No.31 給気用送風機 弱風量設定」が「72% (工場出荷)」の場合

・「機能設定 No.30 給気用送風機 微弱風量設定」の選択範囲は「30～72%」とする。

・「機能設定 No.32 給気用送風機 強風量設定」の選択範囲は「72～100%」とする。

※ MA スマートリモコンの「風量設定（風量多段階設定）」画面から本機能の設定変更が可能です。

※ 「**20** 定風量制御設定」を「有効」に設定した場合、強風量の設定は無効です。

リモコンの風量操作で「強」を選択した場合、定風量制御で動作します。

※ 別売のCO₂センサーを接続して、風量操作で「自動」を選択した場合、本設定に関わらず風量自動制御を行います。

※ 給気用送風機の風量が一定以下の場合、製品保護のためサーモOFFで動作します。工場出荷時は、微弱風量（44%）で運転時に温調制御を行いません。サーモOFFで動作します。

LGH-N35RDF4-DM：規定風量比58%以下はサーモOFF

LGH-N50～100RDF4(-DM)：規定風量比51%以下はサーモOFF

※ 使用時に異常音や異常な振動が発生する場合は、規定風量比の設定をずらしてご使用ください。

機能設定 つづき

20 定風量制御設定

圧力損失が変化した場合でもモーターの回転数を自動調整することで、常に一定の換気風量を確保します。風量操作で「強風量」を選択した場合の動作を定風量制御に切り換えて運転することができます。

機能切換スイッチ			MA スマートリモコン		モード	動作
SW1	OFF ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値		
6	OFF	■	42	1	無効	定風量制御で動作しない（工場出荷時）
	ON	■		2	有効	風量操作で「強風量」を選択した場合、定風量制御で動作する

- ※ MA スマートリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」（機能切換スイッチ優先）になっています。
- ※ 本機能を「有効」にした場合でも、給気・排気の室内側・室外側各々の圧力差が大きい場合などでは、設定風量にならないことがあります。また、定風量特性における機外静圧上限以上の圧力損失がある場合は設定値よりも風量は低下します。
- ※ 定風量制御時はモーター回転数が自動調整されるため、製品本体騒音が運転初期より大きくなる場合があります。
- ※ 本機能を「無効」にした場合の強風量、および弱風量・微弱風量は「19 風量設定（風量多段階設定）」に従い運転します。
- ※ 本機能を「有効」にした場合、以下の機能が使用できません。

6 マルチ換気モード設定、

19 風量設定（風量多段階設定）における強風量の設定

※ 別売の CO₂ センサーを接続して、風量操作で「自動」を選択した場合、本機能は無効となり、風量自動制御で動作します。

21 給気・排気用送風機 定風量設定

定風量制御時、使用環境や設置状況に応じて給気・排気の風量バランスを調整できます。「20 定風量制御設定」を「有効」に設定した場合のみ使用することができます。工場出荷時は「強ノッチ定格風量」に設定されています。

■給気用送風機設定

MA スマートリモコン			動作
機能設定 No.	機能設定値	チェック	
43	0		強ノッチ定格風量 + 10%
	1		強ノッチ定格風量（工場出荷時）
	2		強ノッチ定格風量 - 10%
	3		強ノッチ定格風量 - 20%
	4		強ノッチ定格風量 - 30%

■排気用送風機設定

MA スマートリモコン			動作
機能設定 No.	機能設定値	チェック	
44	0		強ノッチ定格風量 + 10%
	1		強ノッチ定格風量（工場出荷時）
	2		強ノッチ定格風量 - 10%
	3		強ノッチ定格風量 - 20%
	4		強ノッチ定格風量 - 30%

※ 定風量設定による動作風量例（LGH-N100RDF4-(DM) の場合）

- ・ 強ノッチ定格風量（工場出荷時）設定時：1000m³/h
- ・ 強ノッチ定格風量 + 10%設定時：1100m³/h
- ・ 強ノッチ定格風量 - 10%設定時：900m³/h
- ・ 強ノッチ定格風量 - 20%設定時：800m³/h
- ・ 強ノッチ定格風量 - 30%設定時：700m³/h

22 普通換気時 風量最大制御設定

普通換気で運転中、外気冷房を積極的に行うため、強制的に強風量で運転させることが可能です。工場出荷時は「無効」に設定されています。

機能切換スイッチ			MA スマートリモコン			モード	動作
—	OFF ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
—	—	—	50	0		無効	普通換気で運転中、リモコンの風量操作に従う（工場出荷時）
				1		有効	普通換気で運転中、強風量で運転する

※ 設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

※ 本機能で運転中は、MA スマートリモコンに「省エネ運転中アイコン」を表示します。

※ 除湿運転または送風運転で下記の条件をすべて満たしたときに強風量で運転します。

外気温度が低い場合など、ダンパー動作が「ロスナイ換気」のとき、本機能は無効です。

① 換気モード操作が「普通換気」または「自動換気」で、ダンパー動作が「普通換気」のとき

② 風量・普通換気切換入力（CN16）の換気モード操作でダンパー動作が「普通換気」のとき

※ 別売の CO₂ センサーを接続して風量操作で「自動」を選択した場合でも、上記条件を満たせば最大風量で運転し、CO₂ センサーによる風量自動制御は行いません。

※ 以下の場合、本機能は無効です。

① リモコンで風量操作をしたとき（次回、運転操作を行うまで本機能は無効となります）

② 風量・普通換気切換入力（CN16）を使用して風量操作をしたとき

※ 「6 マルチ換気モード設定」は本動作よりも優先します。

23 ナイトパーズ設定

ナイトパーズとは、夏場の夜間にこもった熱気を自動排気し、翌朝の冷房負荷を軽減させるものです。ナイトパーズ設定の有効 / 無効およびナイトパーズ風量を選択します。工場出荷時は「無効」に設定されています。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
-	-	22	0		無効	ナイトパーズ運転しません (工場出荷時)
			1		有効 (微弱風量)	微弱風量でナイトパーズ運転します
			2		有効 (弱風量)	弱風量でナイトパーズ運転します
			3		有効 (強風量)	強風量でナイトパーズ運転します

※ 設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

※ ナイトパーズは、MA スマートリモコンを接続する場合のみ使用することができます。

また、ナイトパーズを行う場合は、MA スマートリモコンの時刻設定を行ってください。

※ MA スマートリモコンの「換気設定」画面から本機能の設定変更が可能です。詳細は「MA スマートリモコン 専用設定画面からの設定」の「換気設定」をご参照ください。

24 ナイトパーズ室内外温度差設定

工場出荷時は「室内外温度差 5℃」に設定されています。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			室内外温度差	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
-	-	23	0		0℃	RA 温度 - OA 温度が 0℃ より大きいときに ナイトパーズ運転を行います
			1		1℃	RA 温度 - OA 温度が 1℃ より大きいときに ナイトパーズ運転を行います
			2		2℃	RA 温度 - OA 温度が 2℃ より大きいときに ナイトパーズ運転を行います
			3		3℃	RA 温度 - OA 温度が 3℃ より大きいときに ナイトパーズ運転を行います
			4		4℃	RA 温度 - OA 温度が 4℃ より大きいときに ナイトパーズ運転を行います
			5		5℃	RA 温度 - OA 温度が 5℃ より大きいときに ナイトパーズ運転を行います (工場出荷時)
			6		6℃	RA 温度 - OA 温度が 6℃ より大きいときに ナイトパーズ運転を行います
			7		7℃	RA 温度 - OA 温度が 7℃ より大きいときに ナイトパーズ運転を行います

※ 設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

機能設定 つづき

25 ナイトパーズ OA (外気) 温度しきい値設定

ナイトパーズの OA (外気) 温度しきい値を切り換えます。夏期以外も積極的にナイトパーズ運転する場合、通常よりも低めに設定し、外気冷房を優先させます。工場出荷時は、「OA (外気) 温度 28℃」に設定されています。

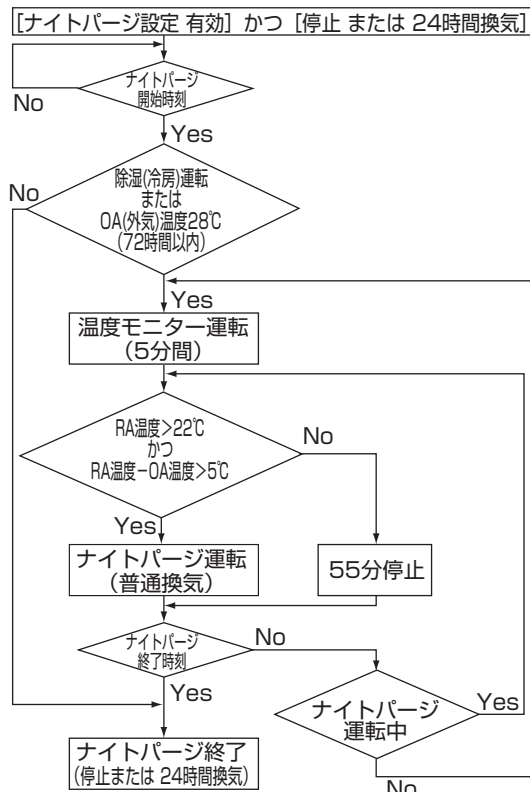
機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			OA (外気) 温度しきい値
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック	
-	-	24	0		15℃
			1		16℃
			2		17℃
			3		18℃
			4		19℃
			5		20℃
			6		21℃
			7		22℃
			8		23℃
			9		24℃
			10		25℃
			11		26℃
			12		27℃
			13		28℃ (工場出荷時)
			14		29℃
15		30℃			

※設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

ナイトパーズ設定が有効の場合、MA スマートリモコンにナイトパーズ設定中「」アイコンが表示されます。また、ナイトパーズ運転は次の条件を全て満たした場合に行います。

- ① 時計表示が AM1:00 ~ AM6:00
※「換気設定」画面で設定された「ナイトパーズ開始時刻 / 終了時刻」
- ② RA (還気) 温度 > 22℃
- ③ RA (還気) 温度 - OA (外気) 温度 > 5℃
※「24 ナイトパーズ室内外温度差設定」にて変更できます。
- ④ 停止あるいは 24 時間換気中
- ⑤ 除湿 (冷房) 運転していた。
あるいは 72 時間以内に OA (外気) 温度 28℃以上を検知した。
※「25 ナイトパーズ OA (外気) 温度しきい値設定」にて設定できます。

- 風量は「23 ナイトパーズ設定」のモードとなります。
- 条件①、④、⑤を満たした場合、RA (還気) 温度、OA (外気) 温度を計測するため、5 分間の温度モニター運転を行います。5 分後に条件②③を満たした場合、ナイトパーズを行います。条件②③を外れた場合、1 時間ごとに温度モニター運転を繰り返します。
- 温度モニター運転のリモコン表示と動作は、ナイトパーズ中と同じになります。
- ナイトパーズ中に運転 / 停止操作を行った場合、ナイトパーズ終了となり、翌日までナイトパーズを行いません。
- 24 時間換気中は温度モニター運転を行いません。条件①~⑤を満たした場合、ナイトパーズを行います。



お知らせ

- ナイトパーズ中は普通換気での送風運転を行います。MA スマートリモコンからは発停操作、風量操作のみ可能となります。
- ナイトパーズ中、ナイトパーズに対応していないリモコン (システムリモコン PAC-SF50AT2 等) には通常の運転中と同じ表示を行います。このとき、冷房または暖房を表示していても、外気処理ユニットは送風運転を行っています。
- MA スマートリモコンと空調冷熱総合管理システム (AE-200J) を併用する場合、ナイトパーズ設定は空調総合管理システムから行ってください。

26 24 時間換気設定

運転中に、運転 / 停止ボタンの操作により停止になるか、微弱運転（24 時間換気）を行うかの選択を行います。


工場出荷時は「無効」に設定されています。


機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
-	-	20	0		無効	運転中、運転 / 停止ボタン操作で停止（工場出荷時）
			1		有効	運転中、運転 / 停止ボタン操作で微弱運転（24 時間換気）、運転 / 停止ボタンの 5 秒長押しで停止

※ 設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。



※ 24 時間換気は、MA スマートリモコンを接続する場合のみ使用することができます。

※ MA スマートリモコンの「換気設定」画面から本機能の設定変更が可能となります。詳細は「MA スマートリモコン 専用設定画面からの設定」の「換気設定」をご参照ください。

※ 24 時間換気設定を有効に設定されている場合、運転中に運転 / 停止 ボタンを押すと停止画面に 24 時間換気運転中アイコン  および「24h 換気中」が点灯し、微弱運転に切り換わります。停止させるには「運転 / 停止」ボタンを 5 秒間長押しします。

※ 24 時間換気に対応していないリモコン（システムリモコン PAC-SF50AT2 等）から停止操作した場合は、「 24 時間換気設定時 停止動作設定」によります。

27 給気・排気用送風機モニター出力設定

「 モニター出力設定 TB22 ③」または「 モニター出力設定 TM3 / TB22 ②」で「排気用送風機モニター」または「給気用送風機モニター」に設定した場合、排気用送風機、給気用送風機の風量に合わせ、運転信号が取り出せます。

※ 別売の CO₂ センサーを接続して風量操作で「自動」を選択した場合、送風機の運転状態に応じてモニター出力が動作します。

規定風量比 30% ~ 44% : 微弱風量

規定風量比 51% ~ 72% : 弱風量

規定風量比 79% ~ 100% : 強風量

* 規定風量比：強風量で運転したときの定格風量を 100% とした比率

給気用送風機モニター出力設定

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
-	-	63	0		通常	給気用送風機が微弱、弱、強風量で運転時にリレー接点が閉 (ON) となります。(工場出荷時)
			1		弱・強風量モニター	給気用送風機が弱、強風量で運転時にリレー接点が閉 (ON) となります。
			2		強風量モニター	給気用送風機が強風量で運転時にリレー接点が閉 (ON) となります。

※ 設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

排気用送風機モニター出力設定

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
-	-	64	0		通常	排気用送風機が微弱、弱、強風量で運転時にリレー接点が閉 (ON) となります。(工場出荷時)
			1		弱・強風量モニター	排気用送風機が弱、強風量で運転時にリレー接点が閉 (ON) となります。
			2		強風量モニター	排気用送風機が強風量で運転時にリレー接点が閉 (ON) となります。

※ 設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

機能設定 つづき

28 送風運転時 加湿機能設定

外気処理ユニットが送風運転でも加湿モード操作を可能に設定できます。
工場出荷時は加湿（暖房）運転のみ加湿モード操作が有効に設定されています。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
-	-	102	0		無効	加湿（暖房）運転のみ加湿モード操作可能 （工場出荷時）
			1		有効	加湿（暖房）・送風運転で加湿モード操作可能

※ 設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

※ 除湿（冷房）運転時は加湿モード操作ができません。

29 除湿運転時 吹出下限温度設定（冷風防止制御）

本機能は除湿（冷房）運転時に、設定温度と製品の吹出温度を比較して冷房能力を段階的に制御することで、吹出温度の低下を抑制し、コールドドラフトによる不快感や結露を防止する機能です。
吹出温度が設定温度となるように制御するものではありません。

吹出温度が設定温度を下回らないように制御するため、スマート除湿制御や外気温度制御などの他の制御によって既に吹出温度が設定温度よりも十分高い場合には、本機能による冷房能力の制御は行いません。

※ Fit マルチおよびマルチSシリーズ室外ユニットを接続する場合は、必ず本機能を無効に設定してください。（工場出荷時は「13℃」に設定されています）

機能切換スイッチ			MA スマートリモコン			下限温度	動作
OFF	ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
SW3	7	<input type="checkbox"/>	105	1		無効	吹出温度制御（冷風防止制御）無効
	7	<input checked="" type="checkbox"/>		4		13℃	吹出温度制御（冷風防止制御）有効 設定温度 13℃（工場出荷時）
-	-			2		11℃	吹出温度制御（冷風防止制御）有効 設定温度 11℃
				3		12℃	吹出温度制御（冷風防止制御）有効 設定温度 12℃
				5		14℃	吹出温度制御（冷風防止制御）有効 設定温度 14℃
				6		15℃	吹出温度制御（冷風防止制御）有効 設定温度 15℃
				7		16℃	吹出温度制御（冷風防止制御）有効 設定温度 16℃
				8		17℃	吹出温度制御（冷風防止制御）有効 設定温度 17℃
				9		18℃	吹出温度制御（冷風防止制御）有効 設定温度 18℃

※ MA スマートリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」（機能切換スイッチ優先）になっています。

※ 本機能有効時は吹出温度が設定温度以下にならないように冷房能力を制御するため、除湿能力が低下することがあります。除湿を優先したい場合は無効としてください。

※ 機能切換スイッチによる吹出温度制御（冷風防止制御）有効時、吹出温度が設定温度以下となる場合はサーモ OFF させて冷風を防止します。吹出温度が設定温度以下となる場合にサーモ OFF させたくない場合（除湿を優先させたい場合）は「**31** 吹出温度制御 サーモ設定」にて「除湿優先（サーモ OFF 禁止）」を設定することができます。

※ MA スマートリモコンの「吹出温度制御設定」画面から本機能の設定変更が可能です。「吹出温度制御設定」画面で「除湿時 吹出下限温度」を選択して設定変更を行ってください。

30 加湿運転時 吹出上限温度設定（温風防止制御）

本機能は加湿（暖房）運転時に、設定温度と製品の吹出温度を比較して暖房能力を段階的に制御することで、吹出温度の上昇を抑制し、温風による不快感や室温上昇を防止する機能です。

吹出温度が設定温度となるように制御するものではありません。

吹出温度が設定温度を上回らないように制御するため、スマート加湿制御や外気温度制御などの他の制御によって既に吹出温度が設定温度よりも十分低い場合には、本機能による暖房能力の制御は行いません。

※ Fit マルチおよびマルチSシリーズ室外ユニットを接続する場合は、必ず本機能を無効に設定してください。（工場出荷時は「無効」に設定されています）

機能切換スイッチ			MA スマートリモコン			上限温度	動作
OFF	ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
SW3	8 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	106	1	<input type="checkbox"/>	無効	吹出温度制御（温風防止制御）無効（工場出荷時）
	8 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		2	<input type="checkbox"/>	26℃	吹出温度制御（温風防止制御）有効 設定温度 26℃
—	—	3		<input type="checkbox"/>	27℃	吹出温度制御（温風防止制御）有効 設定温度 27℃	
—	—	4		<input type="checkbox"/>	28℃	吹出温度制御（温風防止制御）有効 設定温度 28℃	
—	—	5		<input type="checkbox"/>	29℃	吹出温度制御（温風防止制御）有効 設定温度 29℃	
—	—	6		<input type="checkbox"/>	30℃	吹出温度制御（温風防止制御）有効 設定温度 30℃	

※ MA スマートリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」（機能切換スイッチ優先）になっています。

※ 本機能有効時は吹出温度が設定温度以上にならないように暖房能力を制御するため、加湿能力が低下することがあります。吹出温度の抑制を優先したい場合のみ、有効としてください。

※ 機能切換スイッチによる吹出温度制御（温風防止制御）有効時、吹出温度が設定温度以上となる場合はコイル能力 25% でサーモ ON を継続します。吹出温度が設定温度以上でサーモ ON を継続させたくない場合（温風防止を優先したい場合）は「**31** 吹出温度制御 サーモ設定」にて「吹出温度優先（サーモ OFF 許可）」を設定することができます。

※ MA スマートリモコンの「吹出温度制御設定」画面から本機能の設定変更が可能です。「吹出温度制御設定」画面で「加湿時 吹出上限温度」を選択して設定変更を行ってください。

機能設定 つづき

31 吹出温度制御 サーモ設定

「29 除湿運転時 吹出下限温度設定（冷風防止制御）」および「30 加湿運転時 吹出上限温度設定（温風防止制御）」時、吹出温度が設定温度を満足しないときに、サーモ OFF させて温風・冷風を抑制するか（吹出温度優先：サーモ OFF 許可）、コイル能力目標値を 25% としてサーモ ON を継続させるか（除加湿優先：サーモ OFF 禁止）を設定します。

工場出荷時は「除湿（冷房）時：吹出温度優先、加湿（暖房）時：加湿優先」に設定されています。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
-	-	107	0		吹出温度優先 (サーモ OFF 許可)	吹出温度が設定温度を満足できない場合、除湿（冷房）および加湿（暖房）時サーモ OFF します。
			1		除加湿優先 (サーモ OFF 禁止)	吹出温度が設定温度を満足できない場合、除湿（冷房）および加湿（暖房）時サーモ OFF せずにコイル能力 25% でサーモ ON を継続します。
			2		除湿（冷房）時： 除湿優先 加湿（暖房）時： 吹出温度優先	吹出温度が設定温度を満足できない場合、除湿（冷房）時はサーモ OFF せずコイル能力 25% でサーモ ON を継続し、加湿（暖房）時はサーモ OFF します。
			3		除湿（冷房）時： 吹出温度優先 加湿（暖房）時： 加湿優先	吹出温度が設定温度を満足できない場合、除湿（冷房）時はサーモ OFF し、加湿（暖房）時はサーモ OFF せずコイル能力 25% でサーモ ON を継続します。（工場出荷時）

※ 設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

32 加湿能力設定

加湿能力を切り換えます。

「1 制御タイプ設定」が「除加湿優先制御」のときのみ使用することができます。

工場出荷時は「スマート加湿モード」に設定されています。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
-	-	120	0		スマート加湿 モード	外気処理ユニットの RA（還気）湿度検知値により、湿度が低い場合は加湿を優先して運転を行い、RA（還気）湿度が高くなると自動的に「マイルド加湿モード」で運転します。（工場出荷時）
			1		マイルド加湿 モード	外気処理ユニットの OA（外気）温湿度検知値により加湿量を抑えた運転を行います。吹出温度を抑えながら加湿する場合に使用します。

※ 設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

※ 吹出温度を一定にする機能はありません。

33 除湿能力設定

除湿能力を切り換えます。「**1** 制御タイプ設定」が「除加湿優先制御」のときのみ使用することができます。工場出荷時は「スマート除湿モード」に設定されています。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
-	-	121	0		スマート除湿モード	外気処理ユニットのRA（還気）湿度検知値により、湿度が高い場合は除湿を優先した運転を行い、RA（還気）湿度が低くなると自動的に「マイルド除湿モード」で運転します。（工場出荷時）
			1		マイルド除湿モード	外気処理ユニットのOA（外気）温湿度検知値により除湿量を抑えた運転を行います。吹出温度の低下を抑えながら除湿する場合に使用します。

※設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

※吹出温度を一定にする機能はありません。

34 除湿運転時 目標湿度設定（高顕熱冷房時 目標湿度設定）

「**1** 制御タイプ設定」が「除加湿優先制御」の場合にスマート除湿モードの目標湿度を設定します。また高顕熱対応の室外ユニットに接続した場合、高顕熱冷房時の目標湿度としても使用します。工場出荷時は「高」に設定されています。

機能切換スイッチ			MA スマートリモコン			モード	動作		
OFF	ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック				
SW3	5 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	104	3		高	除湿（冷房）運転時の室内空気の目標湿度を高（12.5g/kg(DA)、26℃ 60% 相当）に設定します（工場出荷時）		
	6 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
	5 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				1	中	2	除湿（冷房）運転時の室内空気の目標湿度を低（10.4g/kg(DA)、26℃ 50% 相当）に設定します
	6 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>							
5 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	4	高 α	4	除湿（冷房）運転時の室内空気の目標湿度を中（11.5g/kg(DA)、26℃ 55% 相当）に設定します				
6 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>								

※ MA スマートリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」（機能切換スイッチ優先）になっています。

※ 「**1** 制御タイプ設定」が「外気温度制御」の場合は、高顕熱冷房時の目標湿度としてのみ使用します。また「外気温度制御」の場合、機能切換スイッチでの設定変更はできません。機能設定値が「0」の場合、工場出荷時の「高」が設定されます。

※ 高顕熱冷房運転は専用室外ユニットと組み合わせ時のみ有効です。

35 除湿運転時 目標湿度 有効 / 無効設定

「**34** 除湿運転時 目標湿度設定（高顕熱冷房時 目標湿度設定）」を無効にし、室内湿度によらず除湿を継続運転することも可能です。「**1** 制御タイプ設定」が「除加湿優先制御」のときのみ使用することができます。工場出荷時は「有効」に設定されています。

機能切換スイッチ			MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	チェック	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
SW3	9 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	124	2		有効	目標湿度に従って除湿運転を行います（工場出荷時）
	9 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>					

※ MA スマートリモコンの機能設定値は工場出荷時「0」（機能切換スイッチ優先）になっています。

※ 高顕熱冷房時の目標湿度は、本設定に関わらず「**34** 除湿運転時 目標湿度設定（高顕熱冷房時 目標湿度設定）」の設定を使用します。

機能設定 つづき

36 加湿運転時 サーモ OFF 外気温度設定

加湿運転時にサーモ OFF させる外気温度の変更が可能です。

「**1** 制御タイプ設定」が「除加湿優先制御」のときのみ使用することができます。過加湿防止のために、早めにサーモ OFF させたい場合に変更します。工場出荷時は21℃に設定されています。

機能切換スイッチ	MA スマートリモコン			動作
	OFF	ON	機能設定 No. 機能設定値 チェック	
-	-	122	0	17℃
			1	18℃
			2	19℃
			3	20℃
			4	21℃ (工場出荷時)

※設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

37 除湿運転時 サーモ OFF 外気温度設定

除湿運転時にサーモ OFF させる外気温度の変更が可能です。

「**1** 制御タイプ設定」が「除加湿優先制御」のときのみ使用することができます。

除湿量を抑えるために、早めにサーモ OFF させたい場合や除湿量を多くするためサーモ ON 継続させたい場合に変更します。

工場出荷時は25℃に設定されています。

機能切換スイッチ	MA スマートリモコン			動作
	OFF	ON	機能設定 No. 機能設定値 チェック	
-	-	123	0	19℃
			1	20℃
			2	21℃
			3	22℃
			4	23℃
			5	24℃
			6	25℃ (工場出荷時)
			7	26℃
			8	27℃
			9	28℃
			10	29℃

※設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

38 暖房運転時 外気温度補正

OA ダクトが長い場合または、外気取り入れ口が南側で日が当たるときなどで暖房運転時、温調制御が入りにくい場合に使用します。

「**1** 制御タイプ設定」が「外気温度制御」のときのみ使用することができます。

工場出荷時は「外気温度 +11℃」に設定されています。

機能切換スイッチ	MA スマートリモコン			外気温度補正值
	OFF	ON	機能設定 No. 機能設定値 チェック	
-	-	116	0	外気温度 +11℃ (工場出荷時)
			1	外気温度 +7℃

※設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

※外気処理ユニットの暖房運転時は「リモコン設定温度 > 外気温度補正值」のときに温調制御を開始します。マルチエアコンに連動している場合で、Fit マルチおよびマルチSシリーズ室外ユニットを接続する場合、リモコン設定温度は、「**40** 暖房運転時 サーモ OFF 外気温度設定 (属性 FU 時)」の設定値になります。

※本設定は、暖房運転時のみ有効となります。

39 加熱セーブ加湿モード設定

加湿モード設定を行います。

「**1** 制御タイプ設定」が「外気温度制御」のときのみ使用することができます。

工場出荷時は「無効」に設定されています。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
-	-	115	0		無効	通常通り加湿制御を行います。(工場出荷時)
			1		有効	外気処理ユニットのみの運転で暖房時、室温が必要以上に上昇してしまうような場合に使用します。外気処理ユニットの外気温度検知値により通常時に比べ暖房能力を抑えた制御を行います。

※設定切換は、MA スマートリモコン使用の場合に限り行えます。

40 暖房運転時 サーモ OFF 外気温度設定 (属性 FU 時)

マルチエアコンと連動して使用する場合 (属性 FU 時)、外気処理ユニットの暖房運転 (温調) を自動的に停止させる設定温度を設定します。

Fit マルチおよびマルチSシリーズ室外ユニットを接続する場合のみ設定してください。

工場出荷時は 21℃ に設定されています。

※ MA スマートリモコンからの機能切換はできません。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン		動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	
5	<input type="checkbox"/>	-	-	21℃ (工場出荷時)
6	<input type="checkbox"/>			
5	<input type="checkbox"/>			18℃
6	<input type="checkbox"/>			
5	<input type="checkbox"/>			
6	<input type="checkbox"/>			
5	<input type="checkbox"/>	27℃		
6	<input type="checkbox"/>			

CO₂ センサー (別売システム部材) 接続時の機能設定

41 CO₂ センサー 接続設定

風量自動制御を実施するためには、CO₂ センサー (別売システム部材) を接続した外気処理ユニットを「接続あり」に設定します。

本設定を行いリモコンの風量操作で「自動」を選択した場合、CO₂ センサーによる風量自動制御が可能となります。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			モード	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
-	-	70	0		接続なし	CO ₂ センサーの接続なし (工場出荷時)
			1		接続あり	CO ₂ センサーの接続あり

※ CO₂ センサーを使用する場合、必ず MA スマートリモコンを接続してください。

※ CO₂ センサーを接続した外気処理ユニットのみ「接続あり」に設定してください。

※ CO₂ センサー 1 台で複数台の外気処理ユニットを制御する場合、CO₂ センサーを接続していない外気処理ユニットは「接続なし」としてください。また、CO₂ センサーはグループ内でアドレスが一番若い外気処理ユニット (親機) へ接続してください。

※ 本設定を変更した場合、MA スマートリモコンの風量操作で「自動」の表示有無を確認してください。

※ 風量操作で「自動」を選択した場合 (風量自動制御中)、以下の機能は無効となります。

7 運転開始時 強制パワー給排気設定 **6** マルチ換気モード設定

19 風量設定 (風量多段階設定) **20** 定風量制御設定

※ 本機種は、ビル用マルチエアコン用無線センサ (ラトックシステム株式会社製) との接続はできません。

※ 適用 CO₂ センサーの形名はカタログ等を参照してください。

機能設定 つづき

42 CO₂ センサー グループ制御設定

「41 CO₂ センサー 接続設定」を「接続あり」に設定した場合のみ使用することができます。グループ内に複数の外気処理ユニットを接続する場合で、CO₂ センサーを親機のみ接続する「親機連動制御」、すべての外気処理ユニットに接続する「個別制御」のいずれかが選択可能です。本機能を「個別制御」に設定した場合、MA スマートリモコンは親機の情報を表示します。同一グループ内で「親機連動制御」と「個別制御」の混在設定はできません。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			設定内容	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
—	—	71	0		親機連動制御	親機にのみ CO ₂ センサーを接続してグループ内すべての外気処理ユニットを一括制御する（工場出荷時） 風量自動制御のとき、グループ内の外気処理ユニットは親機の判断で風量を切り換える
			1		個別制御	グループ内すべての外気処理ユニットに CO ₂ センサーを接続して個別制御する 風量自動制御のとき、グループ内の外気処理ユニットは個別で判断して風量を切り換える

43 CO₂ センサー CO₂ 濃度補正

「41 CO₂ センサー 接続設定」を「接続あり」に設定した場合のみ使用することができます。CO₂ センサーは過去およそ一週間で一番低い CO₂ 濃度を基準値（一般の外気 CO₂ 濃度 400ppm）と認識し、検知 CO₂ のレベル校正を実施します。外気 CO₂ 濃度が基準値より常時高いと思われる場所（幹線道路沿いなど）や室内 CO₂ 濃度が常時高い環境で使用される場合は、実際の濃度と検知濃度のずれが大きくなる場合があるため、CO₂ 濃度の補正を行ってください。

〔例〕

市街地で屋外の CO₂ 濃度が定常的に 500ppm の場合にレベル校正を実施すると、500ppm を基準値 400ppm とみなすため、CO₂ センサーの計測値は 100ppm 低くなる。この場合、使用環境の CO₂ 濃度 500ppm に合わせて、本機能を「+100ppm」に設定する。

MA スマートリモコン			設定内容	設置環境 CO ₂ 濃度
機能設定 No.	機能設定値	チェック		
72	0		-250 ppm	150 ppm
	1		-200 ppm	200 ppm
	2		-150 ppm	250 ppm
	3		-100 ppm	300 ppm
	4		-50 ppm	350 ppm
	5		補正なし（工場出荷時）	400 ppm
	6		+50 ppm	450 ppm
	7		+100 ppm	500 ppm
	8		+150 ppm	550 ppm
	9		+200 ppm	600 ppm
10		+250 ppm	650 ppm	

44 CO₂ センサー CO₂ 濃度リモコン表示設定

「41 CO₂ センサー 接続設定」を「接続あり」に設定した場合のみ使用することができます。MA スマートリモコンの運転画面で CO₂ 濃度を表示します。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			設定内容	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
—	—	73	0		非表示	CO ₂ 濃度を表示しない（工場出荷時）
			1		表示	CO ₂ 濃度を表示する

※ リモコンに表示する CO₂ 濃度は、CO₂ センサーの測定値に「43 CO₂ センサー CO₂ 濃度補正」と「45 CO₂ センサー CO₂ 濃度リモコン表示補正」を加算した値となります。

※ CO₂ 濃度は、製品内部の還気風路で計測した値となるため、実際の室内 CO₂ 濃度と差異が生じる場合があります。実際の室内の環境計測器としては使用できません。

※ 運転開始から 15 分程度は実際の室内 CO₂ 濃度とは大きく異なる場合があります。

※ 普通換気で運転中、および「10 加湿準備運転・除霜運転等 排気用送風機 動作設定」で排気用送風機が停止中、CO₂ 濃度は表示されません。

※ 外気処理ユニットの電源を投入してから 15 分程度は CO₂ センサーのウォームアップを実施するため、「---ppm」を表示します。

45 CO₂ センサー CO₂ 濃度リモコン表示補正

「41 CO₂ センサー 接続設定」を「接続あり」に設定した場合のみ使用することができます。

CO₂ 濃度検知は外気処理ユニット本体の還気風路で行い、また居室内の CO₂ 濃度にもムラが生じるため、リモコンに表示された CO₂ 濃度と環境計測等の CO₂ 濃度に差異が生じる場合があります。

リモコンに表示する CO₂ 濃度と環境計測等の CO₂ 濃度に差異がある場合は、リモコンに表示する CO₂ 濃度を補正することができます。

※リモコンの CO₂ 濃度表示のみ補正します。

MA スマートリモコン			設定内容
機能設定 No.	機能設定値	チェック	
74	0		-500 ppm
	1		-400 ppm
	2		-300 ppm
	3		-200 ppm
	4		-100 ppm
	5		補正なし（工場出荷時）
	6		+100 ppm
	7		+200 ppm
	8		+300 ppm
	9		+400 ppm
10		+500 ppm	

46 風量自動制御 目標 CO₂ 濃度設定

「41 CO₂ センサー 接続設定」を「接続あり」に設定した場合のみ使用することができます。

CO₂ センサーによる風量自動制御では、設定された CO₂ 濃度を目標に、室内の CO₂ 濃度に応じて、換気風量を 11 段階に自動で変更します。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			設定内容	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
—	—	75	0		標準（1,000 ppm）	1000ppmを超えないように風量を自動制御する（工場出荷時）
			1		高（1,400 ppm）	1,400 ppmを超えないように風量を自動制御する
			2		低（800 ppm）	800 ppmを超えないように風量を自動制御する

※ 設定した CO₂ 濃度を目標に換気風量の自動切換を実施しますが、CO₂ 検知濃度は使用環境、製品設置条件等により異なるため、ご使用の環境によっては目標 CO₂ 濃度を上回ることがあります。

47 風量自動制御 給排バランス設定

「41 CO₂ センサー 接続設定」を「接続あり」に設定した場合のみ使用することができます。

風量自動制御時、使用環境や設置状況に応じて給気・排気の風量バランスを調整します。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			設定内容	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
—	—	76	0		無効	風量自動制御中、給気・排気送風機は同じ風量で運転する（工場出荷時）
			1		給気用送風機	風量自動制御中、給気用送風機の風量を下げる
			2		排気用送風機	風量自動制御中、排気用送風機の風量を下げる

※ 本機能で選択した送風機に対して、「48 風量自動制御 給排バランス調整」で風量調整値を設定します。

※ 本機能は風量操作で「自動」を選択した場合のみ有効となります。

機能設定 つづき

48 風量自動制御 給排バランス調整

「47 風量自動制御 給排バランス設定」で「給気用送風機」または「排気用送風機」を選択した場合のみ使用することができます。

風量自動制御時、選択した送風機はもう一方の送風機に対して風量調整値の分だけ低い風量で運転します。

〔例〕

排気用送風機を「風量調整値：35% ダウン」に設定し、風量自動制御により最大風量（100%）で運転した場合、「給気用送風機：最大風量（100%）」、「排気用送風機：65%（100% - 35%）」となります。

〔例〕

給気用送風機を「風量調整値：70% ダウン」に設定した場合、排気用送風機の運転状態によらず、給気用送風機は常に「30% 固定」で運転します。

MA スマートリモコン			風量調整値
機能設定 No.	機能設定値	チェック	
77	0		無効（工場出荷時）
	1		7% ダウン
	2		14% ダウン
	3		21% ダウン
	4		28% ダウン
	5		35% ダウン
	6		42% ダウン
	7		49% ダウン
	8		56% ダウン
	9		63% ダウン
	10		70% ダウン

49 風量自動制御 サーモ設定

「41 CO₂ センサー 接続設定」を「接続あり」に設定した場合のみ使用することができます。

給気用送風機の風量が一定以下になった場合、製品保護のためサーモ OFF 運転となります。

除湿運転および加湿運転のとき、風量自動制御による送風機の制御範囲をサーモ ON 可能領域のみとするか、全領域とするか、製品の用途に応じて選択します。

機能切換スイッチ		MA スマートリモコン			設定内容	動作
OFF	ON	機能設定 No.	機能設定値	チェック		
—	—	78	0		サーモOFF 禁止	除湿運転および加湿運転のとき、サーモON可能領域で風量自動制御を行う（工場出荷時） LGH-N35RDF ₄ -DM形： 規定風量比 65～100%（6段階制御） LGH-N50～100RDF ₄ (-DM)形： 規定風量比 58～100%（7段階制御） ※ サーモON維持
			1		サーモOFF 許可	除湿運転または加湿運転のとき、サーモON/OFFによらず全領域（規定風量比 30～100%）で風量自動制御を行う LGH-N35RDF ₄ -DM形： 規定風量比 58%以下でサーモOFF LGH-N50～100RDF ₄ (-DM)形： 規定風量比 51%以下でサーモOFF

※ 同一グループ内に LGH-N35RDF₄-DM と LGH-N50 ～ 100RDF₄(-DM) を混在させる場合、LGH-N50 ～ 100RDF₄(-DM) を親機に設定してください。

据付工事後の確認

注意

- 電源端子台と大地間を 500V メガーで計って 1.0M Ω以上であることを確認する。
 - ・ 絶縁抵抗が、1.0M Ω未満の場合は運転しないでください。
 - ・ 伝送線用端子台にはメグチェックは絶対にかけないでください。制御基板が破損します。
 - ・ 据付け直後、もしくは元電源を切った状態で長時間放置した場合には、圧縮機内に冷媒が溜ることにより、電源端子台と大地間の絶縁抵抗が 1.0M Ω近くまで低下することがあります。
 - ・ 絶縁抵抗が 1.0M Ω以上ある場合は、元電源を入れてクランクケースヒーターを 12 時間以上通電することにより、圧縮機内の冷媒が蒸発するので絶縁抵抗は上昇します。
- 室外ユニットの高圧側と低圧側のバルブがともに全開になっていることを確認し、キャップを必ず締めてください。
- 試運転の最低 12 時間以上前に室外ユニットの元電源を入れて、クランクケースヒーターに通電してください。通電時間が短いと圧縮機故障の原因となります。
- MA スマートリモコン接続端子台・M-NET 伝送線接続端子台に電源電圧（100V、単相 200V）が接続されていないことを確認してください。制御基板が故障します。
- 試運転の際に、水漏れがないことを確認してください。
- 冬期の試運転、リブレース洗浄運転を行う場合は、加湿部分への流入空気条件が 0℃以下にならないようにしてください。試運転、リブレース洗浄運転を行った後は給水バルブを閉止し、排水弁を用いて製品本体内の水抜きを実施し、加湿「切」にしたうえで、累計 3.5 時間以上、強風量で送風機を運転し、加湿エレメント内に水分が残留しないようにしてください。
- 外気が -5℃以下では機器保護のため、試運転、リブレース洗浄運転はできません。

本体の据付工事が終わりましたら、下表にしたがってもう一度点検してください。
不具合がありましたら必ず直してください。

試運転前に下記事項をご確認いただき、必ずチェックボックス をチェック願います。

(1) 製品据付チェック

参照ページ

- 室外側ダクト 2 本、室内給気ダクト 1 本には断熱材を巻付けてありますか？ 9 ページ
- 室外側ダクトは壁側に向かって 1/30 以上の下りこう配を確保していますか？ 6 ページ
- 室外側ダクトは 35・50 形 1m 以上、80・100 形 2.5m 以上の距離を確保していますか？ 6 ページ
- 外気処理ユニットの据付けは緩みなどなく、確実に据付けられていますか？ 8～9 ページ
- 外気処理ユニットの据付角度は指示通りですか？ 8 ページ
- 冷媒配管、ドレン配管、給水配管等の断熱工事はすべて行いましたか？ 10～14 ページ
- 冷媒配管、ドレン配管、給水配管は正しく配管されていますか？ 10～14 ページ
- 冷媒種類は銘板に記載されている内容と間違いありませんか？ 13 ページ
- ガス漏れ検査によるチェックを行いましたか？ 12 ページ
- 全ての加湿エレメント、エリミネーターに倒れや傾き、ズレが無いことを確認しましたか？ 10 ページ
- ドレン排水の確認を行いましたか？ 10 ページ
- 室外ユニットの高圧側、低圧側のバルブが全開になっていることを確認しましたか？ 53 ページ
- 試運転前に 12 時間以上通電していますか？ 53 ページ
- 外気処理ユニット、室外ユニットの吸入口、吹出口は塞がれていませんか？ 2 ページ
- SA ダクトフランジ接続部の内側にアルミテープは貼り付けてありますか？ 7 ページ

(2) 電気工事チェック

- 電源電圧は規定通りですか？ 15～21 ページ
- 接続電線は結線図通り結線されていますか？ 15～21 ページ
- 接続電線の端子台への接続は確実ですか？ 15～21 ページ
- 接続電線の固定は確実ですか？ 15～21 ページ
- 基板上のコネクターのはずれはありませんか？ 15～21 ページ
- アース工事はされていますか？ 15～21 ページ
- 電源電線、伝送線の太さ、仕様は適正なものを使用していますか？ 15～21 ページ

(3) 機能設定チェック

- アドレス設定スイッチ (SW11, SW12) の設定は正しいですか？ 22 ページ
- 分流コントローラの分岐口設定スイッチ (SW14) の設定は正しいですか？ 22 ページ
- リモコンを使用する場合、SW3-1 の設定は正しいですか？ 34 ページ
- MA スマートリモコンからの機能設定は正しいですか？ 25～52 ページ
- 機能切換スイッチの設定は正しいですか？ 22～52 ページ

試運転

システム全体の設置完了後、誤結線がないか確認してから試運転を実施してください。

外気処理ユニットの試運転

1. 試運転スイッチを「ON」にして動作を確認し、正常動作であればチェック欄に☑する。

機能切換スイッチ			動作	
	OFF	ON		チェック
SW1	1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	給気用送風機・排気用送風機に通電され強風量で運転します。
	2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ダンパーモーターに通電され普通換気となります。
	3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	給水電磁弁に通電され加湿エレメントに給水します。

お願い

- 外気処理ユニットが停止しているときに行ってください。
- 試運転スイッチ (SW1-1、1-2、1-3) を「ON」にすると、異常コード“0900”が表示されます。
- ダンパーモーターの試運転スイッチ (SW1-2) を「ON」にしたときダンパー板の動作音がしますが異常ではありません。また、試運転スイッチを ON/OFF 操作してから実際にダンパーが動作するまでに 30 秒程度の時間を要する場合があります。
- 送風機の試運転スイッチ (SW1-1) を「ON」にしているときにダンパーモーターの試運転スイッチ (SW1-2) を ON/OFF 操作しないでください。送風機の運転中にダンパーを作動させようとすると故障の原因となります。試運転スイッチ (SW1-2) は必ず送風機が停止している状態で「ON/OFF」操作してください。
- 給水電磁弁用の試運転スイッチ (SW1-3) を 5 分間 ON 状態とし、加湿エレメント底面から水が排水されることを確認してください。

2. 試運転スイッチを「OFF」にする。

お願い

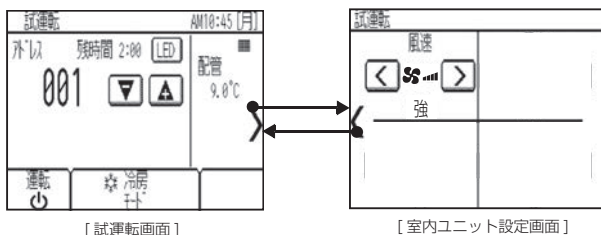
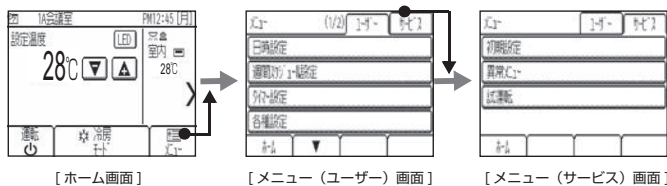
- 給水電磁弁用の試運転スイッチ (SW1-3) を OFF にしてから 1 分間経過し、給水用電磁弁および加湿エレメントから排水が止まることを確認してください。また、排水が戻る場合は、ドレン配管のこう配を見直してください。(10 ページ参照)

マルチエアコンと連動する (SW3-1 が ON) 場合の試運転

- マルチエアコンと連動運転する場合、マルチエアコンのリモコンを使用してマルチエアコンと外気処理ユニットの連動を確認する。

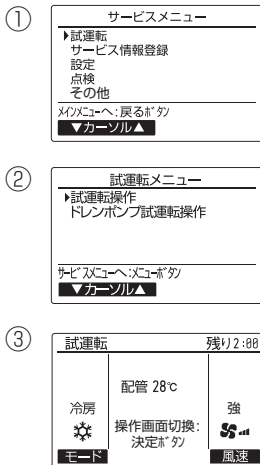
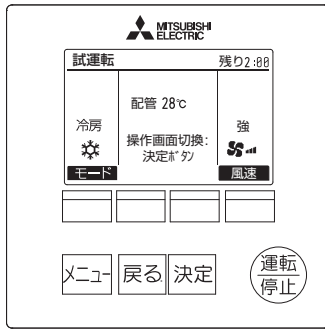
マルチエアコンと連動運転しない (SW3-1 が OFF) 場合の試運転

- ME リモコンの場合



1. 12 時間以上前に元電源を入れる。
しばらくすると自動的にホーム画面に切り替わります。
2. リモコンを『試運転』に切り換える。
※ サービスパスワードが必要です。(ME リモコンの据付工事説明書をご参照ください)
初期サービスパスワードは「9999」です。
[ホーム画面] → [メニュー (サービス) 画面] → [試運転] を選択する。
※ システム異常検知に最大 15 分かかる場合がありますので、全システム同時運転を 15 分以上実施してください。
3. 『運転モード』ボタンにタッチして冷房 (または暖房) 運転に切り換える。
冷房運転…冷風の吹出しを確認する。
暖房運転…温風の吹出しを確認する。
4. 『風速』ボタンにタッチして風速が切り換わることを確認する。
5. 室外ユニットのファン運転を確認する。
6. 試運転の終了
『運転 / 停止』ボタンにタッチして試運転を終了させます。

● MA スマートリモコンの場合



1. 12 時間以上前に元電源を入れる。

リモコンの運転ランプ（緑）と“Please Wait” が点滅表示し、立上げ進捗を%で表示します。

点滅表示中はリモコンからの操作ができません。“Please Wait” が消灯してから操作してください。電源投入後、“Please Wait” は約 3 分間表示されます。

2. リモコンを『試運転』に切り換える。

※サービスパスワードが必要です

- ① サービスメニュー画面で「試運転」を選択し、**[決定]** ボタンを押します。
- ② 試運転メニューが表示されますので、「試運転操作」を選択し、**[決定]** を押します。
- ③ 試運転が開始され、試運転操作画面が表示されます。

※システム異常検知に最大 15 分かかる場合があるため、全システム同時運転を 15 分以上実施してください。

※試運転操作画面時、**[決定]** ボタンの操作はできません。
(操作画面は切り換わりません)

3. **[モード]** ボタンを押して冷房（または暖房）運転に切り換える。

- [F1]** ボタンを押して運転切換を行います。
冷房運転…冷風の吹出しを確認します。
暖房運転…温風の吹出しを確認します。

※風速が「微弱」の場合は冷風・温風が出ません。

4. **[風速]** ボタンを押す。

- [F4]** ボタンを押して風速が切り換わることを確認します。
※風速「自動」はできません。

5. 室外ユニットのファン運転を確認する。

6. 試運転の終了。

[運転/停止] ボタンを押して試運転を終了させます。(試運転メニューに戻ります)

試運転時に異常があった場合

正常に動作しない場合は、下記の原因が考えられますので原因を取り除いてください。

アドレス設定、分岐口 No. 設定、属性 FU 設定、機能設定 SW4 を変更した場合、外気処理ユニットと室外機の電源を入れ直してください。外気処理ユニットは電源を切って 1 分以上経過後、電源を入れ直してください。

症 状	原 因
(1) リモコン表示が全く出ない	● 元電源が入っていない ● MA スマートリモコン線、M-NET 伝送線の短絡・接触不良
(2) 異常コード“6831”～“6834”が表示する	● MA スマートリモコン線の短絡・接触不良
(3) 異常コード“6600”が表示する	● アドレス設定が重複している M-NET 伝送線上に同じアドレス番号を設定された外気処理ユニット、マルチエアコン室内ユニット等の機器が存在する
(4) 異常コード“7107”が表示する	● 分岐口 No. 設定ミス
(5) 異常コード“7106”が表示する	● 属性 FU 設定 (SW3-1 : ON) の状態で MA スマートリモコンを接続した
(6) 異常コード“7101”が表示する	● 機能設定 SW4 の設定が工場出荷時から変更されている

※リモコンによってはコードが点滅表示します。また、試運転スイッチ (SW1-1、1-2、1-3) が OFF の場合にのみ、上記異常コードが表示されます。(試運転スイッチが ON の場合は、「0900」を発報します)

お願い

- 試運転や立会検査実施後は、給水バルブまたはサービス弁を閉止し、排水弁を用いて製品本体内の水抜きを実施した上で、運転モード「送風」(または「暖房」で加湿モード「停止」)、「ロスナイ(熱交換)換気」、「強」風量で累計 24 時間以上送風機を運転し、加湿エレメントの乾燥運転を行ってください。
 - ・乾燥運転を行わないと残留水が腐敗し異臭が発生する場合があります。
 - ・給水バルブまたはサービス弁を閉止しないと、凍結・ウォーターハンマー等の影響により電磁弁・ストレーナーが破損し水漏れの原因となります。
- 異臭の発生した加湿エレメントは交換が必要になります。
- 風量設定 (風量多段階設定) にて風量変更時に、異常音や異常な振動が発生する場合は、規定風量比の設定をずらしてご使用ください。

法令関連の表示

標準的な使用環境と異なる環境で使用された場合や、経年劣化を進める事情が存在する場合には、設計使用期間よりも早期に安全上支障をきたすおそれがあります。

フロン排出抑制法

この製品はフロン排出抑制法・第一種特定製品です。

- フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。
- この製品を廃棄・整備する場合には、フロン類の回収が必要です。
- 冷媒の種類及び数量並びに GWP(地球温暖化係数)は、室外ユニットの製品銘板あるいはサービス(トップ)パネル裏面サービス要領書の記入欄に記載されています。
- 冷媒を追加充填した場合やサービスで冷媒を入れ替えた場合には室外ユニットのサービス(トップ)パネル裏面のサービス要領書の「冷媒量記入のお願い」の記入欄に必要事項を必ず記入してください。



高圧ガス明細書

本製品は、高圧ガス保安法に基づき、冷媒ガスの圧力を受ける部分の材料・構造を遵守し、圧力試験が実施されています。本製品の保安上の明細は次のとおりです。

※冷媒ガスの圧力を受ける部分の部品交換修理は資格のある事業所に依頼されますようお願いいたします。

機器形式名	冷媒	設計圧力 (MPa)		熱交換器	
		高圧	低圧	形式	主な材料
LGH-N35 ~ N100RDF4 形	R410A	4.15	2.21	クロスフィン	C1220T-OL

お客様への説明

- 別冊の「取扱説明書」に従って正しい使いかたを説明してください。特に「安全のために必ず守ること」の項は安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るようご説明ください。なお、物件などで使用者が不在の場合は、発注者（オーナーなど）または、管理会社へご説明ください。
- この「据付工事説明書」は、据付工事が終わりましたら、別冊の「取扱説明書」とともにお客様へ必ずお渡しく下さい。

三菱電機株式会社

中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号